

館報 1989 38

# ANNUAL REPORT

BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石 橋 財 団

ブリヂストン美術館  
石 橋 美 術 館







石橋財団  
ブリヂストン美術館  
石 橋 美 術 館

# 館 報

第38号(1989年度)

ANNUAL REPORT  
No.38(1989)

BRIDGESTONE MUSEUM OF ART  
& ISHIBASHI MUSEUM OF ART  
Ishibashi Foundation



Annual Report No.38(1989)

Bridgestone Museum of Art  
& Ishibashi Museum of Art  
Ishibashi Foundation

Published by Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation  
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan  
March 1991



## 目次 Contents

1	設立趣旨, 機構・運営	4
	Brief History, Organization & Management	5
2	主な記録	6
	ブリヂストン美術館	
	・企画展	6
	・土曜講座	12
	・その他	13
	石橋美術館	
	・特別展	14
	・美術講座他	18
3	1989年度入場者数	19
4	新収蔵作品 New Acquisitions	20
5	修復記録	22
6	研究報告	28
7	美術館案内 Guide to the Museums	41
8	石橋財団職員	42



# 設立趣旨

## ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎氏（1889－1976）が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、1952年（昭和27）1月8日、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956年（昭和31）4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し、1961年（昭和36）9月には同財団が石橋正二郎氏から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお、1959年（昭和34）5月には面積が二倍に拡張されると共に、設備に大改良が加えられた。

## 石橋美術館

石橋美術館は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎氏が1956年（昭和31）4月26日、同社の創立25周年を記念して、社会公共の福祉と文化向上のために、郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977年（昭和52）、石橋正二郎氏の遺族の寄付により増改築が行われ、同年4月以降、久留米市の要請により、石橋財団がその経営に当たっている。

# 機構・運営

## 石橋財団

（1990年3月31日現在）

理事長	石橋幹一郎
理事	鳩山威一郎、盛田昭夫、有田一寿、真藤 恒、谷 信一、門司一二三、嘉門安雄、中川 洋、楠 晋次
監事	亀徳正之、唐澤高美、三木常正
評議員	石橋幹一郎、鶴澤 晋、石井公一郎、小林行雄、郷 裕弘、河北倫明、谷 信一、朝吹三吉、石橋 寛、真藤 恒、高碓芳郎、吉久勝美、有田一寿、橋口 収、高階秀爾、友部 直、門司一二三、喜多村禎勇、嘉門安雄、中川 洋、楠 晋次、朝比奈仙二

## 美術館運営委員会

委員長	石橋幹一郎
委員	河北倫明、谷 信一、朝吹三吉、脇田 和、高階秀爾、友部 直、谷口鉄雄、鈴木健二、石橋 寛、嘉門安雄、中川 洋

常務理事 楠 晋次

## 事務局

事務局長 朝比奈仙二

## ブリヂストン美術館

参与	久保貞次郎		
館長	嘉門安雄	事務部長 大崎新一	学芸部長 阿部信雄

## 石橋美術館

館長	中川 洋	事務部長 平井麟之輔	学芸課長 田内正宏	主任学芸員 橋富博喜
顧問	谷口鉄雄			



# BRIEF HISTORY

## BRIDGESTONE MUSEUM OF ART

On January 8, 1952, in celebration of the completion of the Bridgestone Building, Mr. Shōjirō Ishibashi (1889–1976), ever mindful of the promotion of cultural development in Japan, opened to the public an art gallery within the building, under the name of “Bridgestone Gallery.” Mr. Ishibashi’s personal collection formed the nucleus of the exhibits of paintings, sculptures and other objects d’ art. In April 1956 the management of the Gallery was taken over by the Ishibashi Foundation, and in September 1961 Mr. Shōjirō Ishibashi donated numerous art works of his collection to the Foundation. In May 1959 the Gallery was considerably enlarged and entirely renovated, and in January 1968 the English name was changed from “Bridgestone Gallery” to “Bridgestone Museum of Art.”

## ISHIBASHI MUSEUM OF ART

On April 26, 1956, in celebration of the 25th anniversary of the founding of Bridgestone Corporation, Mr. Shōjirō Ishibashi, the founder of the company, donated the Ishibashi Cultural Center to the city of Kurume, his native place, for the purpose of rendering services to the public and promoting cultural development. The Museum (originally called “Ishibashi Art Gallery”) is the main institution of the Center. In 1971 the English name was changed from “Ishibashi Art Gallery” to “Ishibashi Museum of Art.” In 1977, thanks to a contribution of the bereaved family of Mr. Shōjirō Ishibashi, the building of the Museum was reconstructed and extended, and in April of the same year the Ishibashi Foundation was entrusted with the management of the Museum by the city of Kurume.

# ORGANIZATION & MANAGEMENT

## Ishibashi Foundation

(As of March 31,1990)

<b>President of the Board of Directors</b>		Kanichirō Ishibashi		
<b>Directors</b>	Ichirō Hatoyama	Akio Morita	Kazuhisa Arita	Hisashi Shintō
	Shinichi Tani	Hifumi Monji	Yasuo Kamon	Yō Nakagawa
	Shinji Kusunoki			
<b>Auditors</b>	Masayuki Kitoku	Takami Karasawa	Tsunemasa Miki	
<b>Councillors</b>	Kanichirō Ishibashi	Susumu Uzawa	Kōichirō Ishii	Yukio Kobayashi
	Yasuhiro Gō	Michiaki Kawakita	Nobukazu Tani	Sankichi Asabuki
	Hiroshi Ishibashi	Hisashi Shintō	Yoshirō Takasaki	Katsumi Yoshihisa
	Kazuhisa Arita	Osamu Hashiguchi	Shōji Takashina	Naoshi Tomobe
	Hifumi Monji	Sadao Kitamura	Yasuo Kamon	Yō Nakagawa
	Shinji Kusunoki	Senji Asahina		

## Executive Committee of the Museums

<b>Chairman</b>	Kanichirō Ishibashi			
<b>Members</b>	Michiaki Kawakita	Nobukazu Tani	Sankichi Asabuki	Kazu Wakita
	Shōji Takashina	Naoshi Tomobe	Tetsuo Taniguchi	Kenji Suzuki
	Hiroshi Ishibashi	Yasuo Kamon	Yō Nakagawa	

**Managing Director** Shinji Kusunoki

## Administration

**Executive Secretary** Senji Asahina

## Bridgestone Museum of Art

<b>Councillor</b>	Sadajirō Kubo			
<b>Director</b>	Yasuo Kamon			
<b>Administrator</b>	Shinichi Ōsaki	<b>Chief Curator</b>	Nobuo Abe	

## Ishibashi Museum of Art

<b>Director</b>	Yō Nakagawa			
<b>Administrator</b>	Rinnosuke Hirai	<b>Chief Curator</b>	Masahiro Tauchi	<b>Curator</b> Hiroki Hashitomi
<b>Adviser</b>	Tetsuo Taniguchi			

## 主な記録 ブリヂストン美術館

### 《企画展》

#### ギュスターヴ・クールベ展

1989年6月3日－8月6日

主催:石橋財団ブリヂストン美術館／日本放送協会

後援:外務省／文化庁／フランス大使館／東京都／NHKサービスセンター／NHKエンタープライズ

出品内容:油彩画54点／素描8点／版画2点

入場者総数:172,961人

#### 油彩

1. 《ナアンの橋(オルナン)》／1837年頃／油彩,紙(カンヴァスで裏打ち)／17×26cm／オルナン,クールベ美術館蔵
2. 《祖父ウード》／1843年頃／油彩,カンヴァス／55×46cm／オルナン,クールベ美術館蔵
3. 《恐怖に気の狂った男(絶望した男)》／1843年頃／油彩,カンヴァス／60.5×50.5cm／オスロ,国立美術館蔵
4. 《画家の肖像(黒い犬を連れたクールベ)》／1844年／油彩,カンヴァス／46.3×55.5cm／パリ,プチ・パレ美術館蔵
5. 《田園の恋人たち(ジュスティースとギュスターヴ)》／1844年頃／油彩,カンヴァス／54×40.5cm／村内美術館蔵
6. 《まどろむパッコス(の)信女》／1844年／油彩,カンヴァス／65×81cm／スイス,個人蔵
7. 《自画像》／1850年頃／油彩,紙(カンヴァスで裏打ち)／51×41.5cm／プザンソン美術館蔵
8. 《エクトール・ペルリオーズの胸像習作》／1850年／油彩,カンヴァス／60.5×50cm／オスロ,国立美術館蔵
9. 《白い雄牛と茶色の雌牛》／1850-51年頃／油彩,カンヴァス／88.5×115cm／チューリヒ,ナタン画廊蔵
10. 《スペインの踊り子アデーラ・ゲレーロ嬢》／1851年／油彩,カンヴァス／158×158cm／ブリュッセル,ベルギー王立美術館蔵
11. 《まどろむ女,習作》／1852年?／油彩,カンヴァス／70×94cm／東京,個人蔵
12. 《眠る女》／1853年／油彩,カンヴァス／46×38cm／千葉県立美術館蔵
13. 《シャンフルーリの肖像》／1854年／油彩,カンヴァス／46×38cm／パリ,オルセー美術館蔵
14. 《セーヌ河畔のお嬢さんたち(夏)》／1856-57年／油彩,カンヴァス／174×206cm／パリ,プチ・パレ美術館蔵
15. 《まどろむ麦刈り女(ジャン＝フランソワ・ド・トロワの絵の模写)》／1857年頃／油彩,カンヴァス／65×80cm／西宮市大谷記念美術館蔵
16. 《雪の中を駆ける鹿》1856-57年頃／油彩,カンヴァス／93.5×148.8cm／石橋財団ブリヂストン美術館蔵
17. 《追いつめられた雌鹿,雪の効果(ジュラ)》／1857年／油彩,カンヴァス／91×147cm／ニューヨーク,個人蔵
18. 《ドイツの狩人》／1859年／油彩,カンヴァス／118×174cm／ロンス＝ル＝ソーニエ美術館蔵
19. 《海辺の休息場》／1859年／油彩,カンヴァス／70×90cm／東京,個人蔵
20. 《罾にかかった狐》／1860年?／油彩,カンヴァス／81×100cm／国立西洋美術館(松方コレクション)蔵
21. 《鏡を見る女》／1860年／油彩,カンヴァス／64.5×54.5cm／個人蔵,バーゼル美術館寄託
22. 《ボロー夫人の肖像》／1863年／油彩,カンヴァス／75×60cm／ニューヨーク,個人蔵
23. 《足跡を捜す馬上の猟師》／1864年／油彩,カンヴァス／110×91cm／ニュー・ヘイヴン,イェール大学付属美術館蔵
24. 《ルー川の源》／1864年／油彩,カンヴァス／80×100cm／ブリュッセル,ベルギー王立美術館蔵
25. 《ルー川の洞窟》／1864年／油彩,カンヴァス／98.4×130.4cm／ワシントン,ナショナル・ギャラリー蔵
26. 《オルナンの城》／1864年／油彩,カンヴァス／65×81cm／フランス,個人蔵
27. 《フラジェーの榎の木(ヴェルサンジェトリックスの榎の木)》／1864年／油彩,カンヴァス／89×110cm／村内美術館蔵
28. 《ピュセの農場》／1864年／油彩,カンヴァス／54×65cm／兵庫,個人蔵
29. 《川辺の鹿》／1864年?／油彩,カンヴァス／73×92cm／山梨県立美術館蔵
30. 《1853年のピエール＝ジョゼフ・ブルードンの肖像》／1865年／油彩,カンヴァス／147×198cm／パリ,プチ・パレ美術館蔵
31. 《ボドスカーフに乗る婦人》／1865年／油彩,カンヴァス／173.5×210cm／村内美術館蔵
32. 《ドレール兄の肖像》／1865年／油彩,カンヴァス／92.1×73cm／ノーサンプトン(マサチューセッツ州),スミス・カレッジ付属美術館蔵
33. 《ドレール弟の肖像》／1865年／油彩,カンヴァス／91.4×72.4cm／スプリングフィールド美術館蔵
34. 《オルナン近くの風景》／1865年／油彩,カンヴァス／39.5×54.5cm／丸亀美術館蔵
35. 《ピュイ・ノワールの溪流》／1865年／油彩,カンヴァス／75×90cm／静岡県立美術館蔵
36. 《木の下の子鹿》／1865年?／油彩,カンヴァス／110×82cm／村内美術館蔵
37. 《眠り》／1866年／油彩,カンヴァス／135×200cm／パリ,プチ・パレ美術館蔵





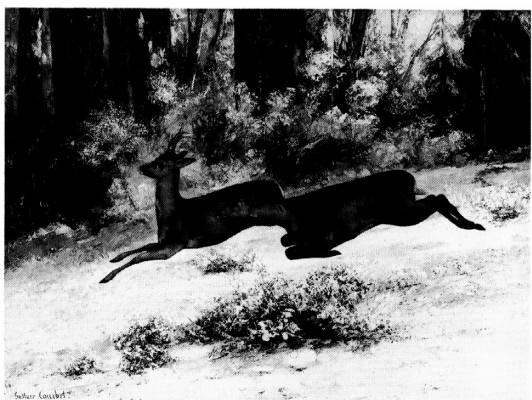
4



14



30



38



47



52

- 
38. 《鹿の策略, 鹿狩りのエピソード(フランシュ=コンテ)》/1866年/油彩, カンヴァス/97.5×130cm/コペンハーゲン, オルドルップ  
ガール美術館蔵
39. 《海景(サントーバン=シュル=メール)》/1867年/油彩, カンヴァス/54×65cm/ルガーノ(スイス), ティッセン=ボルネミッサ・コレ  
クション蔵
40. 《竜巻》/1867年/油彩, カンヴァス/65×81cm/東京, 個人蔵
41. 《秋の海》/1867年/油彩, カンヴァス/54×73cm/大原美術館蔵
42. 《泉》/1868年/油彩, カンヴァス/128×97cm/パリ, オルセー美術館蔵
43. 《裸婦》/1868年/油彩, カンヴァス/46×55cm/フィラデルフィア美術館蔵
44. 《雪の中の鹿の闘い》/1868年頃/油彩, カンヴァス/60×80cm/ひろしま美術館蔵
45. 《物思うジプシー女》/1869年/油彩, カンヴァス/50×61cm/国立西洋美術館(松方コレクション)蔵
46. 《波》/1869年/油彩, カンヴァス/66×92cm/日本, 個人蔵
47. 《海景》/1869年/油彩, カンヴァス/43×60cm/スイス, 個人蔵
48. 《エトルタの断崖, ボルト・ダヴァル》/1869年/油彩, カンヴァス/79×100cm/東京, 個人蔵
49. 《花》/1871年/油彩, 板/20×26cm/オルナン, クールベ美術館蔵
50. 《りんごと梨》/1871-72 年/油彩, カンヴァス/24×32.5cm/フィラデルフィア美術館蔵
51. 《デュヴァル氏の英国馬》/1872年/油彩, カンヴァス/32×40.5cm/東京, 個人蔵
52. 《ます》/1873年/油彩, カンヴァス/65.5×98.5cm/パリ, オルセー美術館蔵
53. 《シヨンの城》/1874年/油彩, カンヴァス/86×113cm/オルナン, クールベ美術館蔵
54. 《ダン・デュ・ミディ山》/1874年頃/油彩, カンヴァス/24×33cm/兵庫, 個人蔵

#### 素描

55. 《哲学者トラバドゥーの肖像》/1847年/黒クレヨン, 紙/18.9×15.1cm/ケンブリッジ(マサチューセッツ州), フォッグ美術館蔵
56. 《田園の恋人たち》/1847年/木炭, 紙/42×31.5cm/チューリヒ, ベーター・ナタン氏蔵
57. 《若い母親》/1848年頃/木炭, 紙/29×23cm/プザンソン美術館蔵
58. 《ゼリー・クールベの肖像》/1853年/木炭, 紙/27.5×20cm/オルナン, クールベ美術館蔵
59. 《ねずみ取り屋ジャンノ》/1867-68年/木炭, 紙/71×48cm/東京, 個人蔵
60. 《乞食の施し》/1868年/黒鉛筆, 紙/28.5×22.5cm/ウィリアムズタウン, スターリング・アンド・フランシン・クラーク・アート・イン  
スティテュート蔵
61. 《風景習作》/1873-75年頃?/木炭, 紙/25×35cm/オルナン, クールベ美術館蔵
62. 《オルナン近くの岩の風景》/黒鉛筆, 紙/23.3×31cm/ボストン, 個人蔵

#### 版画

63. 《村のお嬢さんたち(クールベの作品に基づくブラックモンの版画)》/1866-67年/エッチング/22×31cm/  
オルナン, クールベ美術館蔵
64. 《法話の帰り道(クールベの作品に基づく制作者不詳の版画)》/リトグラフ/18×27.5cm/オルナン, クールベ美術館蔵



## 《企画展》

### ムンク版画展

1989年10月14日－11月19日

主催:石橋財団ブリヂストン美術館／東京新聞／ガレリ・K

後援:ノルウェー王国大使館

出品内容:版画49点

入場者総数:17,055人

1. 《頭蓋骨の腕のある自画像》(Sch.31)／1895年／リトグラフ／455×317mm
2. 《病める少女(赤のヴァージョン)》(Sch.59)／1896年／リトグラフ／419×568mm
3. 《病める少女》(Sch.59)／1896年／リトグラフ／420×566mm
4. 《病める少女》(Sch.7)／1894年／ドライポイントとルーレット／386×292mm
5. 《病める少女の頭部》(Sch.60)／1896年／エッチング／140×180mm／石橋財団ブリヂストン美術館蔵
6. 《慰め》(Sch.6VI)／1894年／ドライポイントとアクアティント／209×309mm
7. 《月光》(Sch.13IIIb)／1894年／ドライポイントとアクアティント／308×251mm
8. 《水浴する少女たち》(Sch.14IIb)／1895年／ドライポイントとアクアティント／211×312mm
9. 《その翌日(朝)》(Sch.15VI)／1895年／ドライポイントとアクアティント／210×298mm
10. 《夏の夜(声, タベ)》(Sch.19III)／1895年／ドライポイントとアクアティント／250×326mm
11. 《思春期(夜に)》(Sch.164)／1902年／エッチング／198×160mm
12. 《ヴァンパイア》(Sch.34a II)／1895年／リトグラフ／383×551mm
13. 《ヴァンパイア》(Sch.34a II)／1895年／リトグラフにグワッシュと淡彩で手彩色／383×551mm
14. 《ヴァンパイア》(Sch.34a II)／1895年／リトグラフにクレヨンと水彩で手彩色／384×551mm
15. 《ヴァンパイア》(Sch.34b)／1895年及び1902年／石版石と4つの部分に切分けられた1枚の合板によるリトグラフ／383×550mm
16. 《ヴァンパイア》(Sch.34b)／1895年及び1902年／石版石と4つの部分に切分けられた1枚の版木によるリトグラフと木版／387×559mm
17. 《ヴァンパイア》(Sch.34b)／1895年及び1902年／石版石と4つの部分に切分けられた1枚の版木によるリトグラフと木版／385×555mm
18. 《ヴァンパイア》(Sch.34b)／1895年及び1902年／石版石と4つの部分に切分けられた1枚の版木によるリトグラフと木版／387×558mm
19. 《ヴァンパイア》(Sch.34b)／1895年及び1902年／石版石と4つの部分に切分けられた1枚の版木によるリトグラフと木版／387×558mm
20. 《接吻》(Sch.22a)／1895年／エッチングとドライポイントとアクアティント／380×279mm
21. 《接吻》(Sch.102C II)／1898年／木版／506×405mm
22. 《接吻》(Sch.102D)／1902年／木版／470×470mm
23. 《女の髪に包まれた男の顔(鏡)》(Sch.80b)／1896年／木版／546×381mm
24. 《月光》(Sch.81Aa/c)／1896年／木版／408×527mm
25. 《森へ》(Sch.100b)／1897年／木版／495×565mm
26. 《不安》(Sch.62)／1896年／木版／460×377mm
27. 《死の床のかたわらで》(Sch.72IV)／1896年／リトグラフ／401×499mm
28. 《病室での死》(Sch.73 II)／1896年／リトグラフ／412×575mm
29. 《嫉妬(小ヴァージョン)》(Sch.57)／1896年／リトグラフ／330×432mm
30. 《嫉妬(大ヴァージョン)》(Sch.58)／1896年／リトグラフ／461×570mm
31. 《灰 II (罪の後)》(Sch.120)／1899年／リトグラフ／360×462mm
32. 《メランコリー I》(Sch.82b)／1896年／木版／378×456mm
33. 《豊穣》(Sch.110)／1898年／木版／425×520mm
34. 《浜辺の二人の少女》(Sch.117b)／1898, 1917年／木版と厚紙ステンシル／455×508mm
35. 《浜辺の少女の頭部》(Sch.129A)／1899年／木版／465×413mm



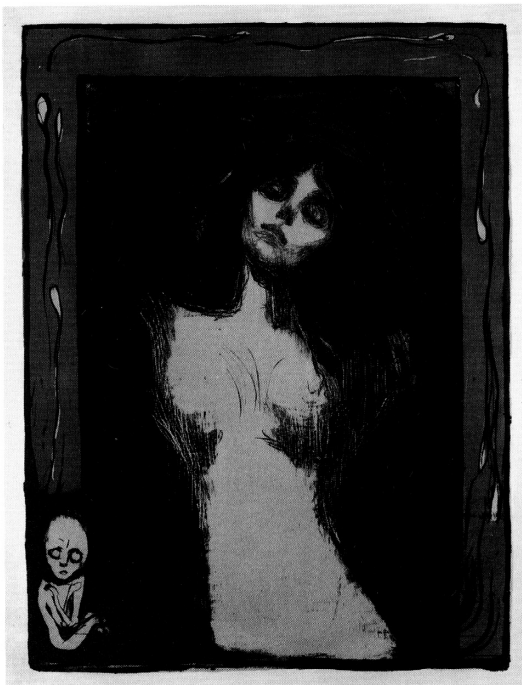
3



47



37



38

- 
36. 《孤独な人たち》(Sch.133第2ステート)／1899年／木版／397×551mm
  37. 《マドンナ》(Sch.33Aa I)／1895年／リトグラフ／660×490mm
  38. 《マドンナ》(Sch.33Ab I)／1895及び1902年／リトグラフと木版／605×442mm
  39. 《エヴァ・ムドッチ(ブローチ)》(Sch.212第1ステート)／1903年／リトグラフ／600×458mm
  39. 《サロメ》(Sch.213)／1903年／リトグラフ／405×305mm
  40. 《ヴァイオリン・コンサート》(Sch.211II)／1903年／リトグラフ／476×540mm
  41. 《サロメ》(Sch.213)／1903年／リトグラフ／405×305mm
  42. 《太った娼婦》(Sch.131第2ステート)／1899年／木版／250×203mm
  43. 《心臓》(Sch.134)／1899年／木版／249×184mm
  44. 《宇宙での出会い》(Sch.135)／1899年／木版／181×252mm
  45. 《栈橋の上の少女たち》(Sch.200III)／1903年／エッチング／179×251mm
  46. 《橋の上の少女たち》(Sch.488a)／1918-20年／木版／492×431mm
  47. 《橋の上の少女たち》(Sch.488b)／1918-20年／木版とリトグラフ／495×430mm
  48. 《ワインボトルのある自画像》／1925-26年／リトグラフ／425×508mm
  49. 《ビルギッテIII(ゴシックの少女)》／1930-31年／木版／689×466mm



## 《土曜講座》

通算回数	月日	講座題目	講師
《第16回ギリシャの文化と美術——ギリシャ世界の拡がり(II)——》			
1537	1989年	4月1日 在日ギリシャ大使挨拶 ギリシャ——美の典型としての——	友部 直氏
1538	1989年	4月8日 ギリシャの舞踊——古代と現代——	田中イチ子氏
1539	1989年	4月15日 ニコラ・プッサンとギリシャ——	木村三郎氏
1540	1989年	4月22日 オリュンポス山をめぐる人々——	西村太良氏
1541	1989年	5月13日 ゲーテとギリシャ——神話的形象——	桂 芳樹氏
1542	1989年	5月20日 パイロンとエルギン——二人のイギリス人貴族——	前田正明氏
《ジャポネズリー研究会連続講演会 ジャポニズム再考》			
1543	1989年	9月2日 アンソールのジャポニズム——	末永昭和氏
1544	1989年	9月9日 ビアズリーと日本——	河村錠一郎氏
1545	1989年	9月16日 東方趣味と日本趣味——	稲賀繁美氏
1546	1989年	9月23日 英国における〈日本趣味〉の濫觴——幕末日本人留学生との 関連において——	谷田博幸氏
1547	1989年	9月30日 博物図譜とジャポニズム——	荒俣 宏氏
《地中海学会秋期連続講演会 地中海域の壁画Ⅰ》			
1548	1989年	10月7日 テラ島の壁画——古代エーゲ海の人と自然——	友部 直氏
1549	1989年	10月14日 ローマ・カタコンベの壁画——古代末期キリスト教美術 の誕生——	名取四郎氏
1550	1989年	10月21日 特別講演『死者の書』について——古代エジプトにおける 死後の生活——	ハンス・シュナイダー氏 通訳 鈴木まどか氏
1551	1989年	10月28日 カタルーニア・ロマネスクの旅——現代絵画への予感——	大高保二郎氏
1552	1989年	11月4日 マケドニアの壁画——アレクサンドロス大王の宮廷美術——	青柳正規氏
1553	1989年	11月11日 ラスコの洞窟壁画——	木村重信氏
1554	1989年	11月18日 自然描写への探求——第18王朝のテーベの墓壁画——	鈴木まどか氏
1555	1989年	11月25日 サンタンジェロ・イン・フォルミスの壁画とシチリアのモザイク——	長塚安司氏
《キリスト教世界と美術Ⅲ》			
1556	1989年	12月9日 反宗教改革の聖人とバロック美術——	石鍋真澄氏
1557	1989年	12月16日 聖マルコとヴェネツィア——	越川倫明氏
1558	1989年	12月23日 デューラーの聖ヒエロニムスなど——	西村規矩夫氏
1559	1990年	1月13日 聖アントニウスの幻想——ボッスとグリューネヴァルト をめぐる——	岡部紘三氏
1560	1990年	1月20日 聖フランチェスコとジョットの絵画——	浦上雅司氏
1561	1990年	1月27日 美術に現われる十二使徒——	裾分一弘氏
《世紀末の美術》			
1562	1990年	2月10日 ラファエル前派と唯美主義——	高橋裕子氏
1563	1990年	2月17日 アル・ヌーヴォーの華 ミュシャ——	島田紀夫氏
1564	1990年	2月24日 ギュスターヴ・モローと象徴主義——	隠岐由紀子氏
1565	1990年	3月3日 ルドンとゴーギャン——	本江邦夫氏
1566	1990年	3月10日 イギリス世紀末の画家——ホイッスラーをめぐる——	子安三喜男氏
1567	1990年	3月17日 世紀末残照——グスタフ・クリムトの遺産——	水沢 勉氏

《博物館学実習生の受入》

学芸員資格取得のための博物館学実習生を次のように受入れた。

期間：1989年 9 月 5 日より 9 月10日

9 月12日より 9 月17日

人数：7 校 24名

実習内容：

	10：30－12：30	13：30－15：00	15：30－17：00
第1日(火)	美術館内見学	美術館活動の概要	同左
第2日(水)	展示作品見学	作品の保存と展示	作品の調査と修復
第3日(木)	図書資料の管理	同左	作品台帳と写真の管理
第4日(金)	他美術館見学	他館との比較レポート作成	
第5日(土)	普及・教育活動	土曜講座聴講およびアシスト	
第6日(日)		実習ノート整理	まとめ

《1989年度新収図書》

	購 入	寄 贈	計
和書	62冊	128冊	190冊
洋書	86冊	56冊	142冊
計	148冊	184冊	332冊

(＊展覧会図録・逐次刊物は含まない)

## 主な記録 石橋美術館 《特別展》

### ヴィクトリア朝の絵画

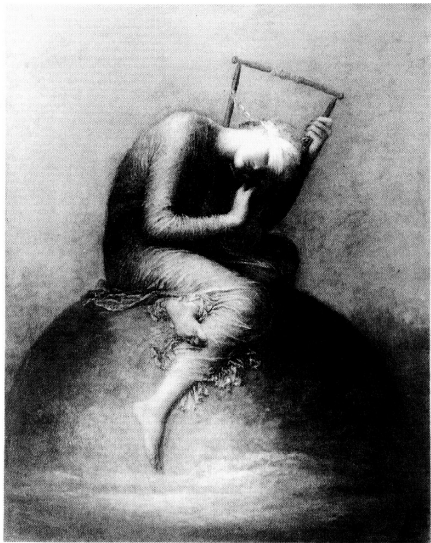
1989年8月5日(土)－9月8日(金)

主催：石橋財団石橋美術館／西日本新聞社／久留米市／久留米市教育委員会／ブリティッシュ・カウンシル

出品内容：油彩57点 水彩3点 チョーク1点 計61点

入場者総数：8,528人

1. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《孔雀の扇》/油彩・板/66×56cm/1865年/ブレ=ラファエライト・インコーポレイテッド
2. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《ニンフ》/油彩・板/64.8×52cm/1860年代/サウス・オーストラリア美術館
3. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《誘惑されるイヴ》/油彩・画布/60×28cm/1865年頃/ワッツ・ギャラリー
4. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《テティス》/油彩・画布/194×54cm/1866-69年頃/ワッツ・ギャラリー
5. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《愛と死》/油彩・画布/132×71cm/1868年以後/ブレ=ラファエライト・インコーポレイテッド
6. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《ディアーナとエンデュミオン》/油彩・画布/107×128cm/1869-1903年/ワッツ・ギャラリー
7. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《希望》/油彩・画布/142.2×111.7cm/1886年/テート・ギャラリー
8. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《希望》/赤チョーク・紙/142.5×109.5cm/1870年頃/ワッツ・ギャラリー
9. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《進歩》/油彩・画布/107×56cm/1888-70年/ヨーク市立美術館
10. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《虹の女神》/油彩・画布/103.5×39.4cm/1891-94年/スチュアート・パイヴァー氏
11. ジョージ・フレデリック・ワッツ 《星をまく》/油彩・画布/122.6×91.4cm/1902-03年頃/オンタリオ美術館
12. フレデリック・レイトン 《小石を拾うギリシアの乙女たち》/油彩・画布/84×129.5cm/1871年/オーエン・エドガー・ギャラリー
13. フレデリック・レイトン 《晩禱の後》/油彩・画布/109×70cm/1872年/プリンストン大学美術館
14. フレデリック・レイトン 《ムーア風庭園》/油彩・画布/105.6×102.5cm/1874年/ニュー・イングランド地区美術館
15. フレデリック・レイトン 《ナウシカ》/油彩・画布/146×67.3cm/1878年/個人蔵
16. フレデリック・レイトン 《ハーレムの女》/油彩・画布/123×82.5cm/1880年/ブレ=ラファエライト・インコーポレイテッド
17. フレデリック・レイトン 《結婚》/油彩・画布/145.4×81.3cm/1882年/ニュー・サウス・ウェールズ美術館
18. フレデリック・レイトン 《メリティオン》/油彩・画布/122×90cm/1882年頃/オークランド市立美術館
19. フレデリック・レイトン 《追想》/油彩・板/76×66cm/1883年/スチュアート・パイヴァー氏
20. フレデリック・レイトン 《球戯をするギリシアの乙女たち》/油彩・画布/114×197cm/1889年/キルマーノック&ロウダウン地区美術館
21. フレデリック・レイトン 《エレジー》/油彩・画布/62×51.5cm/1889年頃/ウォーカー・アート・ギャラリー
22. フレデリック・レイトン 《孤独》/油彩・画布/167.7×76.2cm/1890年/メアリー・ヒル美術館
23. フレデリック・レイトン 《海は死者を……》/油彩・画布/直径45cm/1891-92年/バーミンガム市立美術館
24. フレデリック・レイトン 《山の精》/油彩・画布/198.7×101.6cm/1894年/オークランド市立美術館
25. フレデリック・レイトン 《プレスレット》/油彩・画布/150×66cm/1894年/ファイン・アート・ソサエティ
26. フレデリック・レイトン 《アンドロメダの救出に向かうペルセウス》/油彩・画布/直径184cm/1895-96年/レスターシャー美術館
27. エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ 《狂気のトリストラム卿》/水彩・ボディーカラー・紙/58.5×61cm/1862年/個人蔵
28. エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ 《眠れる騎士(《いばら姫》のための習作)》/油彩・画布/59×82.5cm/1871年頃/ウォーカー・アート・ギャラリー
29. エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ 《聖チェチーリア》/水彩・ボディーカラー・紙/162.5×58.5cm/1875年頃/スチュアート・パイヴァー氏
30. エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ 《牧神の庭》/油彩・画布/152.5×187cm/1886-87年/ヴィクトリア・ナショナル・ギャラリー



7



16



45



59



- 
31. ジョン・アトキンソン・グリムショー 《フィアメッタ》/油彩・画布/61×46cm/1883年/ブラッドフォード美術館
  32. ロレンス・アルマ=タデマ 《ギャラリー》/油彩・画布/218×166cm/1874年/タウンリー・ホール美術館
  33. ロレンス・アルマ=タデマ 《金魚》/油彩・画布/65.5×142cm/1874年/オーエン・エドガー・ギャラリー
  34. ロレンス・アルマ=タデマ 《秋：ぶどう祭》/油彩・画布/75.3×38.1cm/1877年/バーミンガム市立美術館
  35. エドワード・ジョン・ポインター 《オルフェウスとエウリュディケ》/油彩・画布/51×71cm/1862年/ブレ=ラファエライト・インコーポレイテッド
  36. エドワード・ジョン・ポインター 《ペルセウスとアンドロメダ》/油彩・画布/15.9×45.7cm/1872年/ファイン・アート・ソサエティ
  37. エドワード・ジョン・ポインター 《外洋へ》/油彩・画布/49.5×49.5cm/1886年/テート・ギャラリー
  38. エドワード・ジョン・ポインター 《テラスで》/油彩・画布/59.5×42.2cm/1889年/ウォーカー・アート・ギャラリー
  39. エドワード・ジョン・ポインター 《ヘレナとハーミア》/油彩・画布/125.7×100.4cm/1901年/サウス・オーストラリア美術館
  40. エドワード・ジョン・ポインター 《ディアナとエンデュミオン》/油彩・画布/50.8×38.1cm/1902年/マンチェスター市立美術館
  41. エドワード・ジョン・ポインター 《嵐の精》/油彩・画布/148×112cm/1903年/サリ・ラ・デファンス社
  42. シメオン・ソロモン 《バックス》/油彩・紙/50.3×37.5cm/1867年/バーミンガム市立美術館
  43. シメオン・ソロモン 《眠れる者と見守る者》/水彩・紙/34.7×44.7cm/1871年/ウォリック郡文化財課(レミントン・スパ美術館)
  44. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《あんず》/油彩・画布/41×30cm/1866年/ハマースミス, フラム区
  45. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《ざくろ》/油彩・画布/25.4×35.6cm/1866年/ギルドホール・アート・ギャラリー
  46. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《ヴィーナス》/油彩・画布/160×76.2cm/1869年/ヨーク市立美術館
  47. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《シャトルcock》/油彩・画布/106.7×44.5cm/1869-70年/個人蔵
  48. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《かもめ》/油彩・画布/125.7×86.4cm/1870-71年/ウィリアムスン美術館
  49. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《ソファ》/油彩・画布/28×50.8cm/1875年/個人蔵
  50. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《ソファの二人》/油彩・画布/30.2×48.9cm/1875年頃/イエール大学英国美術研究センター
  51. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《鳥》/油彩・画布/153×63.5cm/1878年/スチュアート・パイヴァー氏
  52. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《イエロー(緑の蝶)》/油彩・画布/39.2×13.2cm/1878-81年頃/デラウェア美術館
  53. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《アカシア》/油彩・画布/61×40cm/1882年/ブレ=ラファエライト・インコーポレイテッド
  54. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《稲妻》/油彩・画布/86.3×144.8cm/1892年/フォーズ・マガジン・コレクション
  55. アルバート・ジョーゼフ・ムーア 《牧歌》/油彩・画布/86.5×79cm/1892-93年/マンチェスター市立美術館
  56. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《甘美なる無為》/油彩・画布/50×95.5cm/1880年/カーコーディー美術館
  57. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《花売り》/油彩・画布/56×79cm/1880年/レイング・アート・ギャラリー
  58. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《ディオゲネス》/油彩・画布/208.3×134.6cm/1882年/ニュー・サウス・ウェールズ美術館
  59. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《ホノーリウス帝のお気に入り》/油彩・画布/119.3×205cm/1883年/サウス・オーストラリア美術館
  60. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《シャーロットの乙女》/油彩・画布/142.2×86.3cm/1894年/リーズ市立美術館
  61. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《フロラとゼピュロス》/油彩・画布/104×204cm/1898年頃/個人蔵
  62. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《宿命》/油彩・画布/68.5×54.5cm/1900年/タウンリー・ホール美術館
  63. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《人魚》/油彩・画布/98×67cm/1900年/ロイヤル・アカデミー
  64. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《春の歌》/油彩・画布/71×91.5cm/1913年/オーエン・エドガー・ギャラリー
  65. ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス 《ダンテとベアトリーチェ》/油彩・画布/47×60cm/1916年頃/タネンバウム夫妻
  66. ハーバート・ジェイムズ・ドレイパー 《ウォーター・ベビー》/油彩・画布/直径68.5cm/1900年/マンチェスター市立美術館
-

---

67. ハーバート・ジェイムズ・ドレイパー 《アフロディーテの真珠》/油彩・画布/228.5×114.3cm/1907年/個人蔵

この内 14.《ムーア風庭園》, 15.《ナウシカ》, 17.《結婚》, 30.《牧神の庭》, 58.《ディオゲネス》, 67.《アフロディーテの真珠》  
の6点は不出品

《美術講座》

月 日	演 題	講 師
1989年 8月5日 8月12日	《「ヴィクトリア朝の絵画」開催記念美術講座》  G.F.ワッツの《希望》について ラファエル前派とヴィクトリアン・ロマンティック	橋 富 博 喜 潮 江 宏 三
10月28日 11月4日	《西洋美術講座》  イタリア・ルネサンスの美術 イタリア・バロック美術の特色	篠 塚 二 三 男 浦 上 雅 司
11月11日 11月18日	《東洋美術講座》  王羲之の「蘭亭序」(上) 王羲之の「蘭亭序」(下)	谷 口 鉄 雄 谷 口 鉄 雄
1990年 2月3日 2月10日 2月17日 2月24日	《近代美術講座》  印象派 —— モネの世界 ピュヴィス・ド・シャヴァンヌと日本近代美術 青木繁作《秋声》をめぐる —— 明治洋画の樹下婦人図 詩と絵画 —— 古賀春江の場合	田 内 正 宏 橋 富 博 喜 植 野 健 造 杉 本 秀 子

《1989年度新収図書》

	購 入	寄 贈	計
和書	170冊	59冊	229冊
洋書	11冊	1冊	12冊
計	181冊	60冊	241冊

## 1989年度入場者数

### ブリヂストン美術館

月	開館 日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	26	3,911	559	222	477	5,169	194	5,363	206
5	18	4,075	822	317	373	5,587	27	5,614	312
6	24	33,950	4,000	468	5,840	44,258	14,028	58,286	2,428
7	26	39,717	6,376	1,619	10,052	57,764	23,377	81,141	3,121
8	17	22,267	6,827	1,777	9,251	40,122	▲2,122	38,000	2,235
9	26	4,390	703	147	1,028	6,268	66	6,334	244
10	23	5,483	1,124	111	604	7,322	650	7,972	347
11	24	7,170	2,100	171	398	9,839	2,346	12,185	508
12	21	2,808	414	36	159	3,417	29	3,446	164
1	23	3,182	472	170	206	4,030	57	4,087	178
2	24	4,164	624	432	591	5,811	39	5,850	244
3	27	4,787	709	298	531	6,325	76	6,401	237
合計	279	135,904	24,730	5,768	29,510	195,912	38,767	234,679	841

### 石橋美術館

月	開館 日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	22	2,739	297	305	960	4,301	814	5,115	233
5	26	2,744	220	262	1,648	4,874	191	5,065	195
6	26	3,286	140	196	765	4,387	153	4,540	175
7	25	2,284	150	159	1,957	4,550	144	4,694	188
8	23	3,316	428	589	1,180	5,513	869	6,382	277
9	18	1,560	172	80	1,037	2,849	743	3,592	200
10	26	1,882	86	99	2,502	4,569	238	4,807	185
11	26	1,886	76	93	1,332	3,387	176	3,563	137
12	23	923	144	70	443	1,580	39	1,619	70
1	24	1,182	70	148	331	1,731	219	1,950	81
2	25	1,638	79	134	389	2,240	157	2,397	96
3	27	1,965	189	203	273	2,630	▲180	2,450	91
合計	291	25,405	2,051	2,338	12,817	42,611	3,563	46,174	159

▲は前売り券入場者分を後に無料から有料へ振替えたために発生したマイナスを意味する。



## 新収蔵作品 New Acquisitions

ドーミエ, オノレ

### DAUMIER, Honoré

1808-1879

#### 山中のドン・キホーテ

1850年頃

油彩・板, 39.7×31.7cm

左下に署名: H.Daumier

#### Don Quixote in the Mountains

c.1850

Oil on wooden panel, 39.7×31.7cm

Signed lower left: H.Daumier

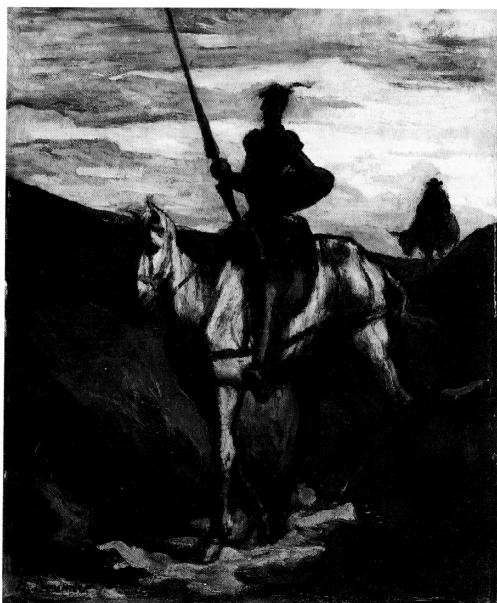
来歴 Prov.: Charles Aubry, Paris (sale: Paris, Hôtel Drouot, Vente P.A., 1897, no.3); Behrens, Paris; sale: Paris, Hôtel Drouot, March 24, 1900, no.5; Franz Goerg, Paris (sale: Paris, Hôtel Drouot, 1910, no.24); Etienne Bignou, Paris; Reid & Lefevre, London; Robert Treat Paine, 2nd, Boston, acquired October 1926; Richard C.Paine, Boston and thence by descent; Thos. Agnew & Sons Ltd., London; acquired by the Foundation, 1989.

展覧会歴 Exh.: *Daumier*, Galerie Durand-Ruel, Paris, 1878, no.4; *Exposition centennale*, Paris, 1889, no.232; *Exposition Daumier*, Ecole des Beaux-Arts, Paris, 1901, no.45; *Centennale de l'art français*, Institut Français, St.Petersburg, 1912, no.245; *French Paintings of the 19th and 20th Centuries*, Fogg Art Museum, Cambridge, Massachusetts, 1929, no.18; *Daumier: Peintures, aquarelles, dessins*, Galerie de l'Orangerie, Paris, 1934, no.39; *Daumier, Paintings and Drawings*, Tate Gallery, London, 1961, no.87.

文献 Bibl.: Arsène Alexandre, *Honoré Daumier, l'homme et l'œuvre*, Paris, 1888, p.373; Gustave Gefroy, *Daumier*, Paris, 1901, p.6; Erich Klossowski, *Honoré Daumier*, Munich, 1923, pl.44; André Fontainas, *La Peinture de Daumier*, Paris, 1923, pl.34; *Cahiers d'Art*, vol.III, 1928, p.197; *The Arts*, New York, vol. I, 1929, p.63; Eduard Fuchs, *Der Maler Daumier*, Munich, 1930, no.163; Raymond Escholier, *Daumier*, Paris, 1930, pl.29; Benno Fleischmann, *Honoré Daumier: Gemälde und Graphik*, Vienna, 1937, pl.7(French edition: Paris, 1939); Jacques Lassaigue, *Daumier*, Paris, 1938, pl.157; Claude Roger-Marx, *Daumier*, Paris, 1938, p.27; Raymond Escholier, *Daumier*, Paris, 1938, p.125; Jean Cassou, *Daumier*, Lausanne, 1949, pl.50; N.Kalitina, *Honoré Daumier*, Moscow, 1955, pl.75; Curt Schweicher, *Daumier*, London, 1954, pl.63; Cherpin, in *Marseille, Revue municipale*, vol.III, no.29, 1956, pp.34,38; Oliver W. Larkin, *Daumier: Man of His Time*, New York, 1966, pp.195-96, pl.93; Karl Eric Maisow, *Honoré Daumier, Catalogue Raisonné of the Paintings*, Paris, 1968, vol. I, p.70, no.1-33, pl.147; Luigi Barzini and Gabrielle Mandel, *L'Opera pittorica completa di Daumier*, Milan, 1971, p.91, no.42; Timothy J.Clark, *The Absolute Bourgeois: Artists and Politics in France 1848-1851*, London, 1973, pp.118,202 notes 61,62.

保管:ブリヂストン美術館

Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



山中のドン・キホーテ

## 山下新太郎

### YAMASHITA, Shintaro

1881-1966

#### 海棠

1934年

油彩・画布, 77.5×61.4cm

左下に署名: *Yamas.*, 裏面に題名制作年署名朱文方印: 海棠  
昭和9年春 山下新太郎画「山下新太郎」

#### Flowering Crab-Apple

1934

Oil on canvas, 77.5×61.4cm

Signed upper left: *Yamas.*, inscribed on reverse

来歴 Prov.: 渡辺峰子氏寄贈 (Donated by artist's daughter)

展覧会歴 Exh.: 「第21回二科美術展覧会」東京府美術館, 1934年; 「石井柏亭・山下新太郎前期作品特別陳列」ブリヂストン美術館, 1956年, no.13; 「二科五十周年回顧記念展」東京, 1965年, 目録; 「第28回一水会展」東京都美術館, 1966年, no.88; 「生誕100年山下新太郎展」ブリヂストン美術館, 1981年, no.24

文献 Bibl.: 『山下新太郎』ブリヂストン美術館, 1955年, 図版; 『山下新太郎』一水会, 1969年, 図版; 『二科70年史 1914-1934』社団法人二科会, 1985年, 図版

保管: ブリヂストン美術館

*Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)*



海棠

## 小林敬生

### KOBAYASHI, Keisei

1944-

#### 蘇生の刻 — 飛翔・A —

1989年

木口木版, 67.0×83.5cm

#### The Time of Revival-Flight A —

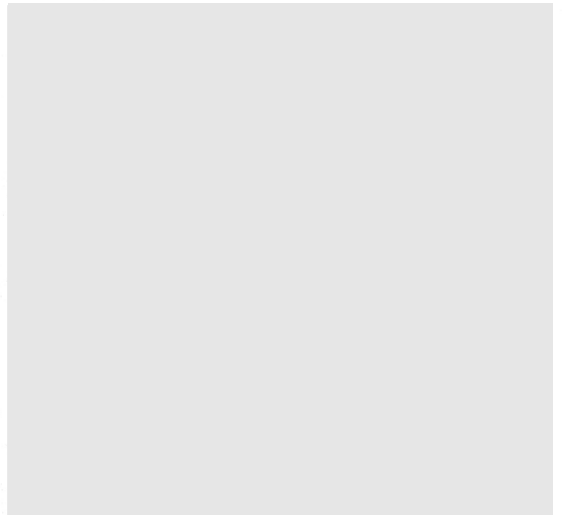
1989

woodengraving, 67.0×83.5cm

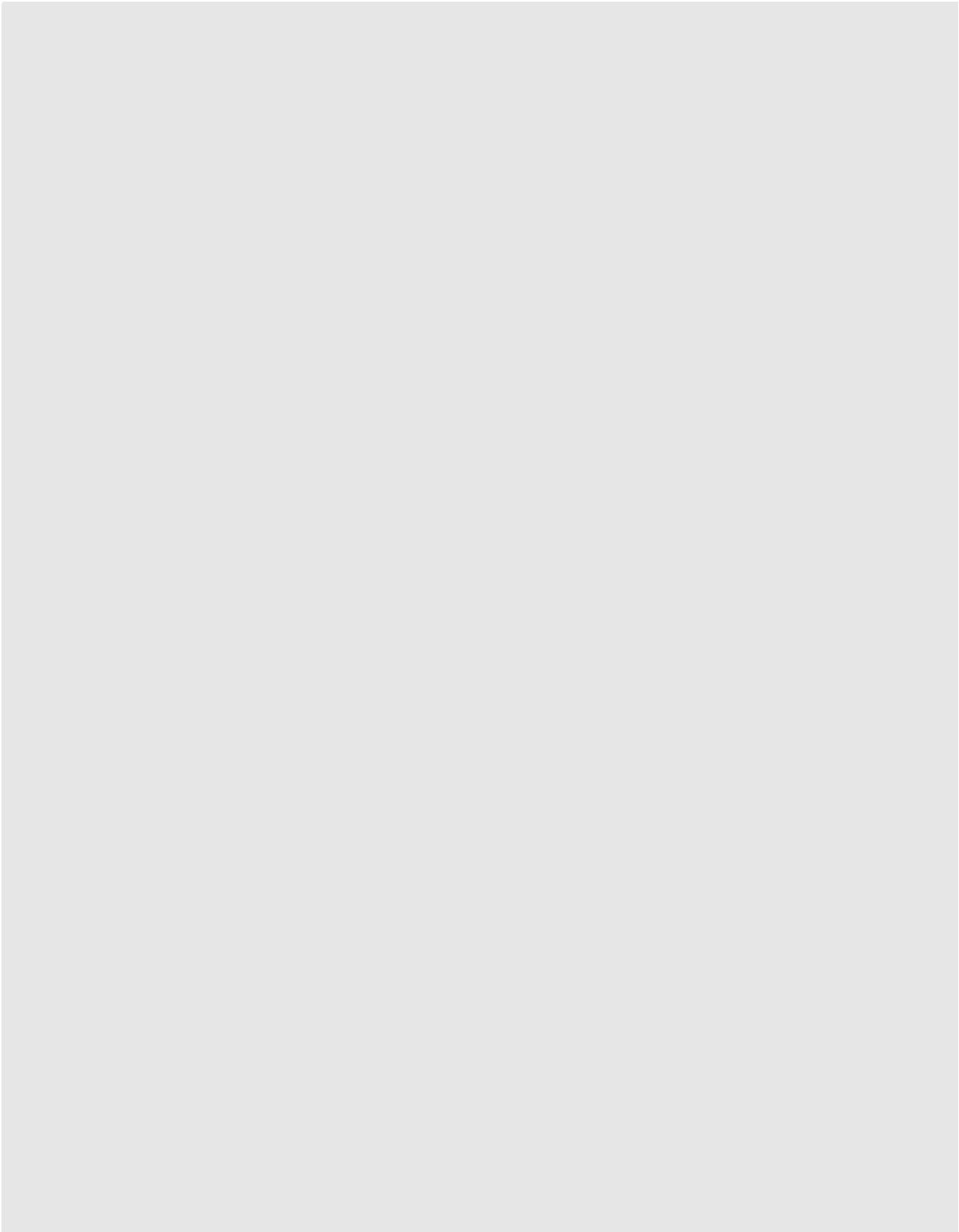
展覧会 Exh.: 「第19回現代日本美術展」東京都美術館, 高松市美術館, 船橋 西武美術館, 北九州市立美術館, 1989年, ブリヂストン美術館賞受賞

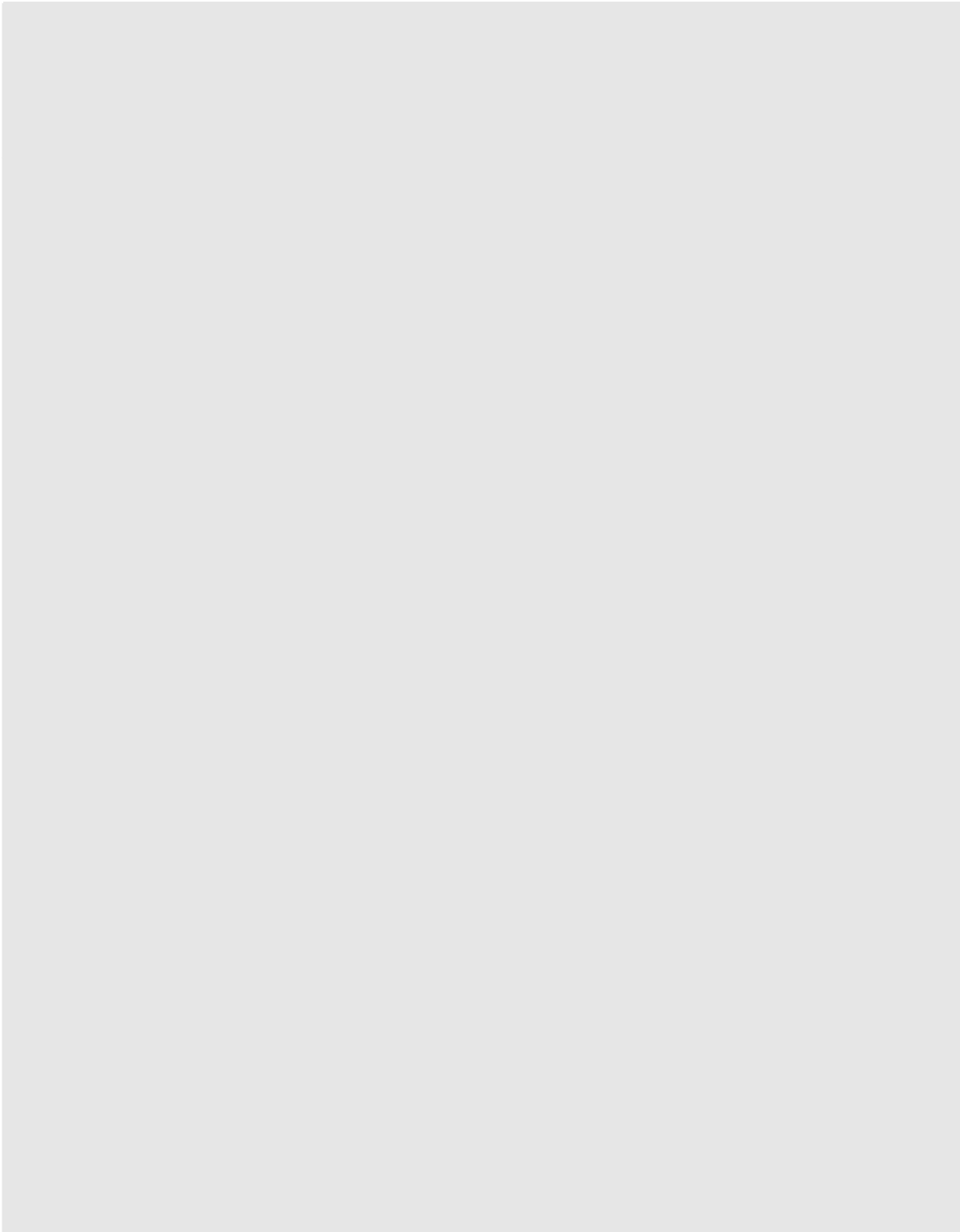
保管: ブリヂストン美術館

*Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)*

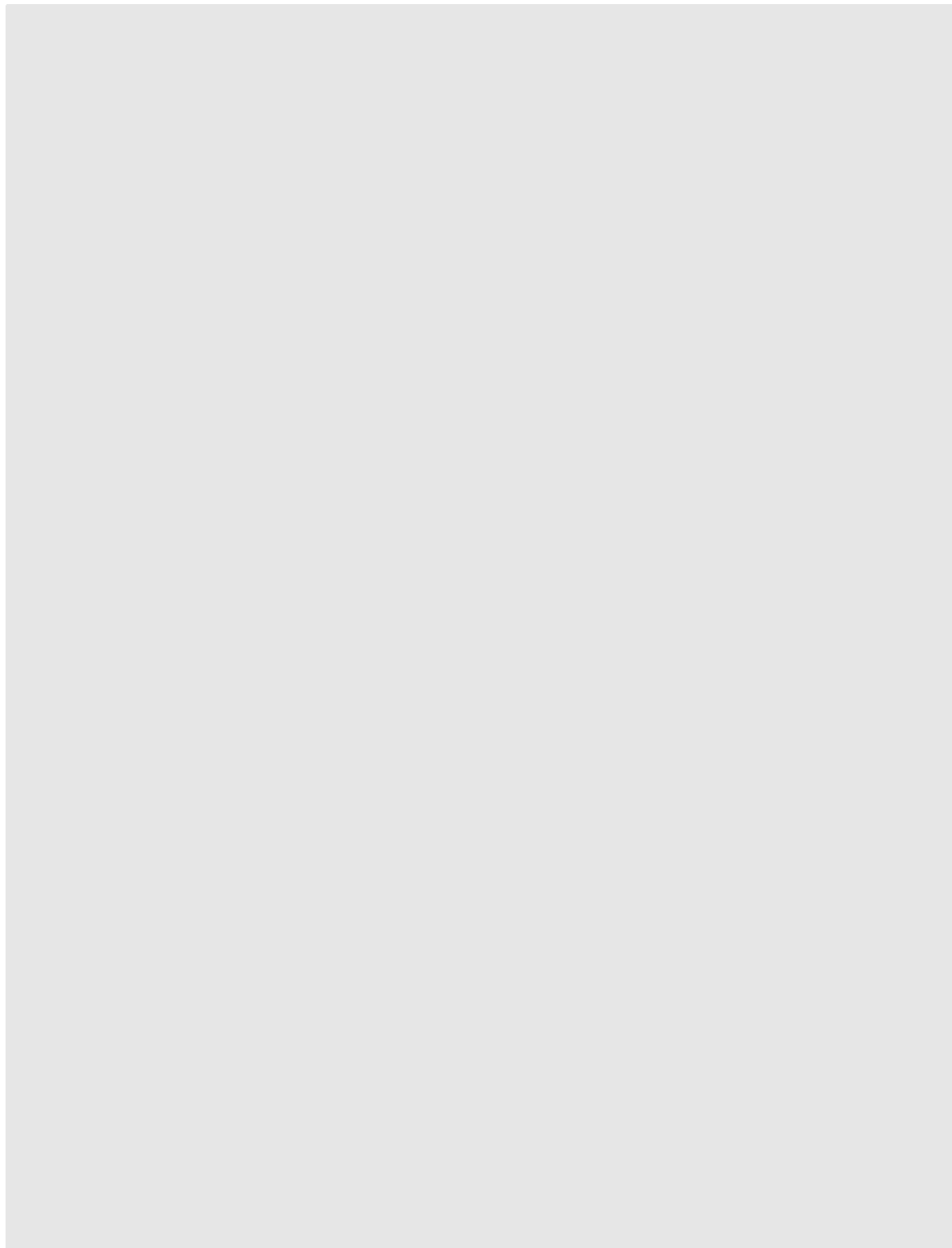


蘇生の刻—飛翔・A—









**青木繁《春》1904年**

水性絵具・鉛筆・油性パステル・洋紙 17.0×33.8cm

〔組成〕

作品は、表面がやや粗く、褐色を帯びた0.3mmの厚みの洋紙を支持体として描かれている。四辺とも刃物で切断されているが直線ではない。

最下層に細い鉛筆線の下描きがあり、水彩絵具が塗られ、最表層にも鉛筆の線が再び使用され、下辺の一部に、油脂分を含む艶のある緑色が認められる。

作品裏面の左右、上下、上辺の左右に、作品を台紙に固定する目的の為に薄い洋紙が貼られている。右下隅と左下下にはセロハンテープが付着している。

〔損傷〕

支持体の劣化の程度は進んでいて、脆弱である。裏面に濃い褐色の水染みが認められる。作品を手を持つと垂れ下がり、折れが、裂けに移行している。PHは5.5を示している。下辺には既に裂けが集中して発生している。左下隅に10×20mmの支持体の欠損があり、折れと裂けが放射状に認められる。

白色の厚塗り部分に亀裂、浮上がりが生じている。

〔修復処置〕

1. 調査および記録写真。
2. 白色絵具の亀裂部分の接着。
3. 裏面の乾式洗浄。付着物の除去。
4. 支持体の折れや裂けを、裏面から薄い美濃紙を使用して繕う。
5. 左下角の欠損部に本紙と同じ厚さの洋紙をはめこみ、裏面を和紙で補強した。
6. 0.15mmの厚みの和紙で、裏打ち。(接着剤は小麦粉糊，TBZ水溶液で希釈)，仮張に張る。
7. 絵具層の欠損部に、補彩。
8. 修復後の記録写真撮影。



修復前



修復後

# 青木繁《狂女》1906年

水性絵具・鉛筆・洋紙・厚紙 29.0×15.4cm

署名：画面右上に白色水性絵具による署名，横書き二行  
「T.B.S.Awoki. 1906」

## 〔組成〕

作品の支持体は厚みが0.27-0.3mmの洋紙である。糸目の幅が28mm，片子数24/30mmの凹凸のある木炭デッサン紙である。糸目方向が短辺に切断されている。作品の補強材として裏面に厚紙が張られていて，作品の周縁10mm幅が強い糊によって接着されている。作品の切断の線は，直線ではなく，厚紙を張った後に作品と共に小さな鋏で切られた様な形状を示している。この厚紙の除去によって作品支持体の裏面の観察が可能となり，更に，裏面に木炭素描を見出すことができた。木炭素描の側の支持体の凹凸が，狂女の側よりも深く，描線が途中で切れていること等から，木炭素描が先に紙の表側に描かれ，未完成のまま裏面に《狂女》が描かれたと思われる。画面と裏面の作品の天地は逆である。

《狂女》作品は，鉛筆の線に水性絵具が透明に重ねられ，さらに絵具層の上から鉛筆の線の一部が強調されている。最後に，厚みのある白色が，体の明るい部分と，スカート様の布の表現に用いられている。

## 〔損傷〕

支持体の周縁だけが，厚紙に接着されていたために，中央部は吸湿，乾燥を繰り返し，歪みが生じている。極端な脹らみは折れとなり絵具層に損傷を与え，横方向の亀裂が人体を除いた左右に十数箇所認められる。右辺下に，絵具層と共に支持体の表層の欠損部が4か所集中し，頭部の右，厚い白色層に5×3mmの剝落が認められる。支持体上辺の中央に1×11mmの裂け，右上に階段状の欠損がある。

作品補強の厚紙はPH6を示し酸性を帯びている。支持体にも影響を及ぼしていると考えられる。

## 〔修復処置〕

1. 調査および記録写真。
2. 白色絵具の浮上がり部分の接着。
3. 作品の固定台を用意し中空で厚紙と分離。
4. 裏面の乾式洗浄，僅かに水を使って，厚紙と，周縁に貼られた緑色の紙の汚損を除去。  
水性絵具層が水分に対して敏感に反応するため，脱酸処置などを行うことは不可能であった。
5. 支持体の折れや裂けを，木炭画側から薄い美濃紙を使用して補強。
6. 作品寸法より3mm小さくくりぬいた和紙（厚さ0.16mm）を作品周縁にカルボキシメチルセルローズで接着し，乾燥の後，全体を僅かに湿らせ，作品より10mm幅の大きな木枠に固定した。この処置によって支持体の歪みを矯正することが出来た。
7. 絵具層の欠損部に，補彩。
8. 修復後の記録写真撮影。

《狂女》および《春》作品の調査および処置は，鈴木菜穂子，前田留実，山領まり，によって行った。



修復前



修復後



「狂女」裏面

エドガー・ドガ《浴後》1900年頃

パステル・洋紙 62.7×68.5cm

署名：画面右下に黒色のパステルで、Degasと署名されている。

#### 〔組成〕

作品支持体は、非常に薄い淡黄褐色の洋紙である。やや厚い洋紙に裏打ちされていて、二層を合せて画用紙程度の厚みである。更に、周縁20mmの幅で、厚く膠が塗られ、厚紙に接着されている。

描画部分は、パステルだけでなく木炭も併用されている。束ねられた髪の毛の部分には、筆が使用されている。右下のソファの部分はパステルが布で擦込まれ、左下背景部分には横方向のひっかきなど、様々な技法が見られる。かなり多量の定着液が吹付けられたと思われる。画面全体に細かな斑点が認められ、パステルの色彩が点状に濃く沈んでいる部分もある。

#### 〔状態〕

厚紙の台紙と、作品とは、一部分が分離しかけていて、左上上部および中央に脹らみが生じている。

厚紙は明らかに酸性紙であり、PHは5を示していた。厚紙と作品とは周縁を包み張りされていて、接着剤は膠である。膠の一部が右辺に線状に付着している。

支持体の左下角に20mm×30mmの欠損部があり、すでに補修されている。左下に小部分の裂けがあり、補彩されている。左辺上下に裏面からの小さな突き傷が認められる。バスタブの部分には画面側からの押し傷が四箇所認められる。

#### 〔処置〕

1. 状態調査、写真記録。
2. 画面の周縁の膠と包み張りの紙の除去。
3. 厚紙台紙と作品の分離。
4. 作品裏面に付着した膠の除去。
5. 画面の小部分の凹凸を平らにする。欠損部を和紙で繕う。
6. 作品の裏面周縁に石州和紙を張る。接着剤は防黴剤を入れた生麩糊を使用した。
7. 芯材にハニカムコアを入れ、中性紙を画面側に、裏面に布を張った合板のパネルの製作を依頼した。寸法は画面よりもやや大きくした。(パネル寸法：647駆ける705駆ける15mm)
8. 作品裏面全体に僅かに湿りを与え、周縁の和紙に糊を付け、パネルに接着した。

(山領絵画修復工房)

## Catalogue of Dutch and Flemish Paintings in Japan II

Yoriko Kobayashi-Sato

For the first part of this paper, see the previous issue of the *Annual Report Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art* (No.37, 1988, pp.36-54, published in March 1990).\*

Ruisdael, Jacob van (Haarlem 1628/29-Amsterdam 1682)

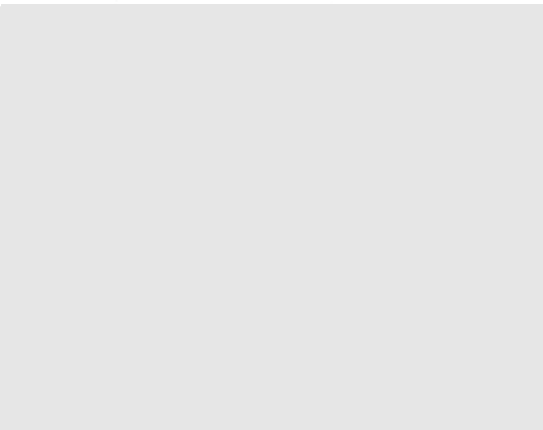
36.

*Landscape with Dune and Small Waterfall*

Oil on panel, 27.5×35.8cm.

Signed and dated at bottom right; *VR* (in monogram) 16...

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1969-2



**Provenance:** Fred. Muller, Amsterdam, 1894; Julius Otto Gottschald, Leipzig, 1901, cat. no. 27; bequeathed to the Leipzig Town Museum in 1903, cat. (1924) no. 807; De Bol, Amsterdam, 1933; priv. coll., Stockholm; Otto Wertheimer, Paris, 1955.

**Exhibition:** *European Landscape Painting*, National Museum of Western Art, Tokyo, 1978, cat. no. 14.

**文献 Bib.:** 山田智三郎, 『昭和44年度購入作品の報告』, 『西美年報』4(1970), pp. 5, 10; 『西美名作選』, 1975, no. 14; 越宏一, 『世界の名画 I — パロッド・ロココの絵画』, 世界文化社, 1977, p. 68; 『西美名作選』, 1978, no. 16; 『西美総目録』, 1979, no. 253; 『西美名作選』, 1989, no. 27.

Hofstede de Groot, 1912, vol. IV, p.79, no. 237; Rosenberg, J., *Jacob van Ruisdael*, Berlin, 1928, no. 548

Dutch landscape in the seventeenth century changed from monochromatic compositions with low horizons to multicolored, massively-constructed works.<sup>1</sup> It was during the transitional period between these two phases that Ruisdael began his activity as a painter. He was one of those instrumental in bringing Dutch realistic landscape painting to its zenith.

The last two figures of the date inscribed on this painting are difficult to decipher. The former owner (the Leipzig Town Museum), Hofstede de Groot, and Rosenberg consistently read the date as "1661."<sup>2</sup> The National Museum of Western Art in Tokyo now considers it to be "1646", according to Prof. Silve.<sup>3</sup> Dunes were one of the favorite subjects of the young Ruisdael before he traveled across the borderlands between the Netherlands and Germany around 1650. The reading of the date as 1646 is also persuasive when one compares the work stylistically with such works as the *Landscape of Dune* (Hermitage, Lenin-

grad) and the *Dune Landscape in the Suburb of Haarlem*, both dated 1646. Incidentally, Ruisdael often dated his works from 1646 to 1653, but did so only very rarely after that time.<sup>4</sup>

Notes: (1)Regarding the style of Dutch landscape painting in the seventeenth century, see Stechow, W., *Dutch Landscape Painting of the Seventeenth Century*, Oxford, 1966. (2)*Verzeichnis der Kunstwerke*, Leipzig 1924, no.807; Hofstede de Groot, op. cit; Rosenberg, op. cit. (3) Exh. cat., 1978, no.14. (4) *Jacob van Ruisdael*, Meulenhoff/Landshoff, 1982 (exh. cat.), p.21.

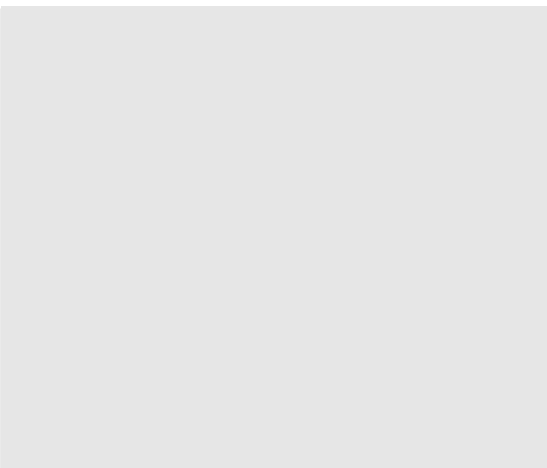
37.

*Wooded Landscape with View at Schloss Bentheim*

Oil on canvas, 63.5×68cm

Signed at bottom left

Yamanashi Prefectural Museum of Art, Kofu



**Provenance:** priv. coll., U. S. ; art dealer Frederick Mont, New York, 1973; E. W. Carter, Los Angeles; Gallery Brod, London, 1977; Sotheby's, London, 1978; priv. coll., the Netherlands; art dealer Waterman, Amsterdam

**Exhibition:** *Thirty Old Masters*, Gallery Brod, London, 1977

**Bib.:** Nicolson, B., 'Current and Forthcoming Exhibition. General', *Burlington Magazine* (December 1977), p. 798

The provenance of this painting can be traced back only to 1973, when an art dealer, F. Mont acquired it from a certain collector in the United States. It has never been mentioned by either Rosenberg, Smith, or Hofstede de Groot.<sup>1</sup> Prof. Slive, who is now preparing to publish a new monograph on Ruisdael, attributes it to this artist.<sup>2</sup>

Around 1650, Ruisdael visited Cleve and Bentheim, towns located near the border with Germany. The impression the



landscape of that region made upon him played an important role in Ruisdael's later development of his mature landscape style, for which he is celebrated in the history of art. After his trip, he painted more than ten landscapes with the Schloss Bentheim, viewed each time from a different angle and placed in a different setting.<sup>3</sup> The piece in Yamanashi is one of these works, with the characteristic square tower of the Schloss Bentheim on the left side.

Ruisdael's dated paintings are mainly from his early years, while less than five of his works from after 1653 are dated.<sup>4</sup> Nevertheless, scholars have reached a general consensus on the chronology of his works, based on his style, motifs, and drawings. Slive has dated the piece in Yamanashi to c. 1655 and attributes the staffage to Johannes Lingelbach (c. 1624-1674).<sup>5</sup>

Notes:(1) Rosenberg, J., *Jacob van Ruisdael*, Berlin, 1928; Smith, J. A., *A Catalogue Raisonné of the Works of the Most Eminent Dutch, Flemish and French Painters*, London, 1829-42; Hofstede de Groot 1912, vol. IV. (2) Letters to author (Aug. 14 and Sep. 16, 1987). (3) Hofstede de Groot, op. cit. (4) Regarding the life and the oeuvre of Ruisdael, see *Jacob van Ruisdael* (ed. S. Slive & H.R.Hoetink), Meulenhoff/Landshoff, 1982 (exh. cat.). (5) See note(2).

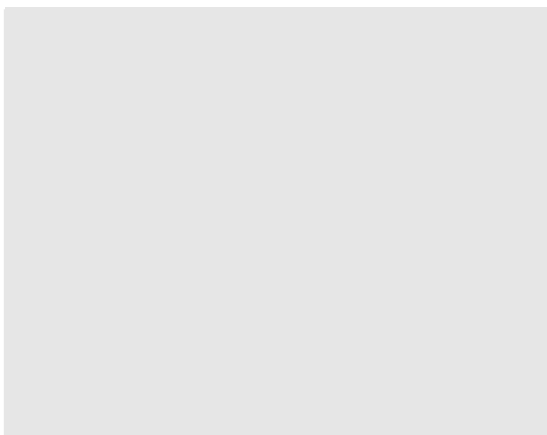
38.

*A Road through an Oak Wood*

Oil on canvas, 102.5×127cm

Signed at bottom right

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1980-2



**Provenance:** Sir Thomas Baring, London, 1848; Charles Sedelmeyer, Vienna, 1872; A. Scharf, Vienna, 1876; Baron de Beurnonville, 1881; Galerie Ch. Sedelmeyer, Paris, 1898 (*Catalogue of 300 Paintings*, 1898, no. 180); Fürst von Liechtenstein, Vienna (*Galeriekatalog*, 1925, p. 180); priv. coll., Germany; Galerie Nathan, Zürich.

**Exhibition:** British Gallery, London, 1839; *Wiener Weltausstellung*, 1873, no. 29; *Zurück zur Natur*, Kunsthalle, Bremen, 1977/78, cat. no. 177.

**文献 Bib.:** 前川誠郎, 「昭和55年度の新収作品について」, 『西美年報』 15 (1981), pp. 6-8; 『西美名作選』, 1983, no. 26.

Smith, J., *A Catalogue Raisonné of the Works of the Most Eminent Dutch, Flemish and French Painters*, supplement, London, 1842, p. 701, no. 62; Hofstede de Groot 1912, vol. IV, p. 195, no. 627; Rosenberg, J., *Jacob van Ruisdael*, Berlin, 1928, p. 96, no. 388.

In 1928, Rosenberg wrote that it was difficult to make an attribution regarding this work because of its poor state of preservation. In his opinion, the composition was pure Ruisdael, but the coloration and style were different from the artist's manner.<sup>1</sup> After the signature appeared in the bottom right

corner upon cleaning in the mid-1960s, however, Rosenberg withdrew his doubts regarding the attribution.<sup>2</sup> Prof. Slive, now preparing a new monograph on this painter, also believes the work to be a genuine Ruisdael.<sup>3</sup> The work must have been painted after 1650.

Smith, as well as Hofstede de Groot, cites a companion piece to this work — a landscape with a verdant hill on the right, a dead beech tree whose leaves are scattered all around, a bridge over a deep gorge being crossed by a man and a woman, a waterfall rushing into the lake in the foreground, and an open plain stretching out toward the distant mountains on the left.<sup>4</sup> This companion piece was in the Baring collection in London together with the work in Tokyo until 1848 and is on record as having been exhibited in London.<sup>5</sup> Its present location is unknown.

The iconographic studies have been made on several works by Ruisdael.<sup>6</sup> In the work in Tokyo, the painter has used some motifs that often appear in his other works and invite allegorical interpretation, including a dead oak tree, a windmill, a bonfire, a path that is shaded in the foreground and illuminated in the distance.<sup>7</sup> Disguised symbolism could exist here as well.

Notes:(1) Rosenberg, op. cit., p. 96. (2) Mayekawa, op. cit. [in Japanese], p. 8. (3) Idem. (4) Smith, op. cit., p. 701; Hofstede de Groot, op. cit., p. 195. (5) Hofstede de Groot, idem. (6) Fuchs, R., 'Over het Landschap. Een Verslag naar Aanleiding van Jacob van Ruisdael <Het Korenveld>', *Tijdschrift voor Geschiedenis* 86 (1973); Kauffmann, H., 'Jacob van Ruisdael. Die Mühle von Wijk bij Duurstede', *Festschrift von Otto van Simson*, Berlin, 1977; Wiegand, W., *Ruisdael-Studien. Ein Versuch zur Ikonographie der Landschaftsmalerei*, Diss. Hamburg, 1971; Raupp, H. J., 'Zur Bedeutung von Thema und Symbol für holländische Landschaftsmalerei des 17. Jahrhunderts', *Jahrbuch der Staatlichen Kunstsammlungen in Baden-Württemberg* 17 (1980), pp. 85-110. (7) See, for example, Raupp, idem; Swelincks, J. G., 'Molen op een hoog Bastion. Gravure uit Zacharias Heyns', *Emblemata*, 1625; Henkel, A. & Schöne, A., *Emblemata*, Stuttgart, 1967, p. 130.

**Seghers, Daniel** (Antwerp 1590-idem 1661)

**Schut, Cornelis** (Antwerp 1597-idem 1655)

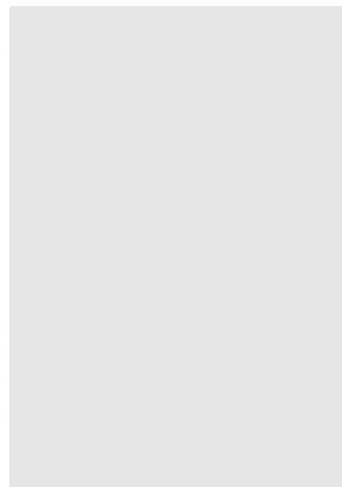
39.

*Garland of Flowers with Madonna*

Oil on panel, 77×53.5cm

Signed at bottom right: *Daniel Seghers • SOC<sup>us</sup> • JESU*

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1981-3



**Provenance:** Count of Schönborn collection, Schloß Pommersfelden; auc. Pommersfelden Painting Collection, Hôtel Drouot, Paris, 1867, cat. no. 216; J. V. Novák, Prague, 1899 (Catalogue by Theodor von Frimmel, no. 78); art dealer J. Böhler, Munich, 1979; Galerie Nathan, Zürich.

文献 Bib.: 幸福輝, 『昭和56年度の新収作品 I. 絵画(2)ダニエル・セーヘルス/コルネリス・スフート《花環の中の聖母子》』, 『西美年報』16 (1982), pp. 7-8, 16-17; 『西美名作選』, 1983, no. 20; 同, 1989, no. 22.

Waagen, G. F., *Kunstwerke und Künstler in Deutschland*, vol. I, Leipzig, 1843, p. 143; *Katalog der gräflich von Schönborn'schen Bilder-Galerie zu Pommersfelden*, Würzburg, 1857, no. 277; Siret, A., *Dictionnaire historique et raisonné des peintres de toutes les écoles*, Berlin, 1924, vol. II, P. 431; Hairs, M.-L., *The Flemish Flower Painters in the XVIIth Century*, Brussels, 1985, p. 492.

Like his teacher Jan Bruegel, the Flemish artist Daniel Seghers is celebrated for his flower paintings. He often painted garlands of flowers, such as shown here, in collaboration with Schut, Quellinus, or Vos, who were responsible for the central religious depictions of such motifs as the *Madonna and Child* or *Annunciation*. This kind of setting for religious motifs implies the secularization of the traditional religious painting.

A list of works by Seghers, compiled by the artist himself and published by Couvreur,<sup>1</sup> reveals Schut to have been his favorite collaborator. Indeed, Schut is mentioned forty-four times as his co-worker. In more than twenty of these works, the Madonna is painted in the center, just like the work in Tokyo. This shows that paintings by these two artists with this theme must have been very popular at the time. Because we can trace the provenance of the Tokyo piece back only to 1875, however, it is impossible to determine to which item in the above-mentioned list it corresponds.

According to a document in Schönborn, this work had a companion piece entitled *Madonna, Child and St. John*.<sup>2</sup> Its location, however, is no longer known. Hairs mentioned this companion piece but not the work in Tokyo in his book of 1965, while he cited both of them in 1985.<sup>3</sup>

Notes:(1) Couvreur, W., 'Daniel Seghers' Inventaris van door hem geschilderde Bloemstukken', *Genesche Bijdragen tot de Kunstgeschiedenis*, Antwerp, XX (1967), pp. 93-126. (2) Cat. Schönborn coll., op. cit., no. 295. (3) Hairs, M.-L., *Les peintres flamands des fleurs au XVIIe siècle*, Brussels 1965; idem, 1985, op. cit.

Steen, Jan (Leiden 1625/26-idem 1679)

40.

#### *Village Wedding*

Oil on panel, 59.5×83.5cm

Signed at bottom right: J Steen (J & S in monogram)

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1976-1

**Provenance:** auc. Paillet & Coclers, Paris, 1801, lot no. 44; auc. Montaleau, Paris, 1802, lot no. 145; auc. Emmer, Paris, 1809, lot no. 26; auc. Erard, Paris, 1832, lot no. 139; auc. Valpinçon, Hôtel Drouot, Paris, 1881, lot no. 27; priv. coll., Normandie, till 1975; art dealer Heim, Paris.

文献 Bib.: 越宏一, 『昭和51年度の新収作品 (絵画) について』, 『西美年報』11 (1977), pp. 8-12, 16-17; 同, 『世界の名画 II —— バロック・ロココ絵画』, 世界文化社, 1977, p. 68; 『西美名作選』, 1978, no. 17; 『西美総目録』, 1979, no. 263; 『西美名作選』, 1983, no. 25; 同, 1989, no. 28.

Catalogues of the auctions above mentioned (1801; 1802; 1809; 1832; 1881); Smith, J., *A Catalogue Raisonné of the Works of the Most Eminent Dutch, Flemish and French Painters*, London, 1833, vol. IV, p. 58; Westheene, T. v., *Jan Steen. Etude sur l'art en Hollande*, The Hague 1856, p. 220; Blanc, Ch., *Histoire des peintres de toutes les écoles*, Paris, 1883, vol. II, p. 16; Hofstede de Groot 1908, vol. I, p. 128; no. 482; 'Chronique des Arts', *Gazette des Beaux-Arts*, ser. 6, tome 88 (Oct. 1976), p. 9; idem, ser. 6, tome 89 (mar. 1977), p. 80; Braun, K., *Meester der Schilderkunst. Jan Steen*, Rotterdam, 1980, p. 151, A-294 as work known only from documents.

Many known works by Jan Steen, one of the most important Dutch genre painters of the seventeenth century, portray wedding scenes.<sup>1</sup> The picture is always filled with relatives celebrating the new couple and curious bystanders, all depicted in lively animation.

In this work, more than fifty figures, including both celebrants and onlookers, crowd before the house of the bridegroom. According to Nieuwstraeten, however, this does not represent an actual occurrence but should rather be interpreted as a scene taken from the theater, because such a practice was not included in the usual program for a wedding ceremony at the time.<sup>2</sup>

There are two other versions of this work. One is a painting previously owned by the art dealer Goudriaen in Rotterdam (49×66cm, signed)<sup>3</sup>, and the other is a drawing, which Martin published in 1928 as the only oil sketch by Steen<sup>4</sup> (Rijksdienst voor Beeldende Kunst, The Hague; 30×40cm, paper fixed to a panel, signed).<sup>5</sup> However, in these versions, such details as the people's facial expression, vegetables, and trees lack vividness, suggesting that both could have been made after the Tokyo work.<sup>6</sup>

Notes:(1) Hofstede de Groot, op. cit., nos. 454-490a. (2) Nieuwstraeten, J., *Man and His World — International Fine Arts Exhibition*, Expo 67, Montreal, 1967, no. 67. (3) Hofstede de Groot, op. cit., no. 486a (no. 486a and no. 471 are identical); Braun, op. cit., no. 39. (4) Martin, W., 'Neues bei Jan Steen', *Zeitschrift für Bildende Kunst* 61 (1927/28), p. 332ff. (5) inv. no. NK2129; see the note added to no. 486a in Hofstede de Groot, op. cit. (Hand exemplaar); Braun, op. cit., no. 40. The provenance of the oil sketch can be traced back until 1755. (6) Upon his visit to Tokyo, Lycker de Vries made an oral statement that the painting in Tokyo could be a copy of the nineteenth century.

Velde, Adriaen van de (Amsterdam 1636-idem 1672)

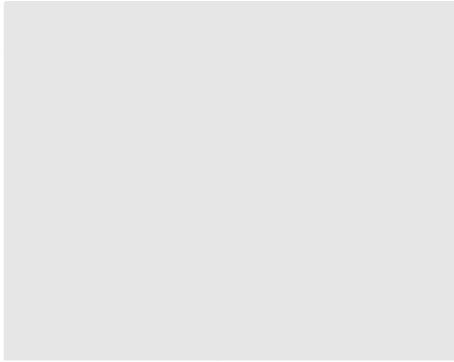
41.

Style in

*Landscape with Shepherd and Shepherdess*

Oil on canvas, 48.2×59.6cm

Tokyo National Museum, inv. no. 699



**Provenance:** McLellan coll., Glasgow; Art Gallery and Museum, Glasgow since 1854, inv. no. 49; acquired by present owner in 1879.  
**文献 Bib.:** 小林頼子, 「東京国立博物館所蔵の西洋絵画」, 『東京純心女子短期大学紀要』, 第2号(1988), pp. 65-66.

Documents in the possession of the Art Gallery and Museum in Glasgow, the former owner of this painting, mention "Van-develde" as the painter.<sup>1</sup> This probably refers Adriaen van de Velde, who often dealt with this kind of pieciful landscape populated by cows, sheeps, shepherds and shepherdesses. However, the awkward modeling, dull painting technique, and inept composition all suggest not the hand of Adriaen himself, but of another painter in his circle, such as Simon van der Does (1653-1718) or Dirck van Bergen (1645-1690).

The amorous shepherd and shepherdess under a tree, keeping watch over their cattle, was a popular motif in the Netherlands in the seventeenth century. The same theme is seen also in paintings by Bloemaert (Hannover) and Lambert Doomer (Oldenberg) as well as in an etching by Rembrandt (B. 188).<sup>2</sup> While these other works all depict a flute, often an idyllic symbol of eroticism, the Tokyo piece has no such motif.

Notes:(1) Letter to author from Anne Donald, curator of the Art Gallery and Museum in Glasgow (Dec. 12, 1985). (2) *Sprache der Bilder*, Brunswick, 1978 (exh. cat.), pp. 48-51, 62-63.

#### Anonym, Flemish 15th century

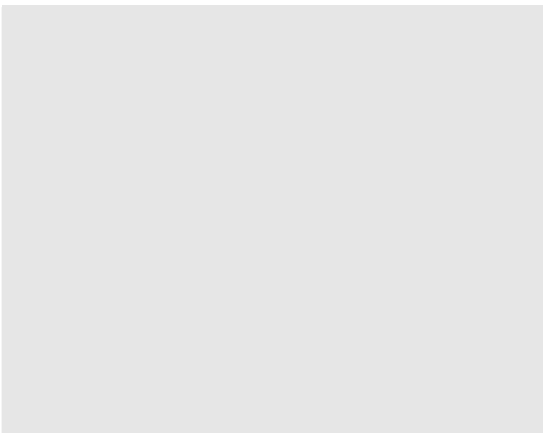
42.

##### *Portrait of a Man*

Oil on panel, 33×21.5cm

On back of panel: coat of arms and entwined initials E and S.

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1978-7



**Provenance:** Earl of Malmesbury, Hunt Court, Christchurch (Hants); auc. Christie's, London, Nov. 3, 1950, lot no. 14; priv. coll., England; Wildenstein, New York.

**文献 Bib.:** 越宏一, 「昭和53年度の新収作品(絵画)について」, 『西美年報』 13 (1979), pp. 4-7, 28-29; 『西美総目録』, 1979, no. 272; 『西美名作選』, 1983;同, 1989, no. 3.

*Illustrated London News*, vol. CCXVII (Nov. 18, 1950), p. 826; Bricoleur, 'Sale room notes & prices', *Apollo*, vol. LII (Dec. 1950), p. 189; Beenken, H., *Rogier van der Weyden*, Munich, 1951, p. 106, fig. 114; Panofsky, E., *Early Netherlandish Painting: Its Origin and Character*, vol. I, Cambridge (Mass.), 1966, p. 478, note 292; Davies, M., *Rogier van der Weyden: an Essay with a Critical Catalogue of Paintings Assigned to Him and to Robert Campin*, London, 1972, p. 231, pls. 101, 102; Schabacker, P. H., 'Review of M. Davies' *Rogier van der Weyden*', *Art Quarterly*, vol. XXXV, no. 4 (1972), p. 424; Bruyn, J., 'A New Monograph on Rogier', *Burlington Magazine*, vol. CXVI (Sep. 1974), p. 541.

This work was previously in the collection of the Earl of Malmesbury in England. At the time of its auction in 1950, it was attributed to Rogier van der Weyden by Friedländer.<sup>1</sup> Beenken, who was prepaing to publish a monograph on this painter at the time, also considered it genuine, based on a photograph provided by the Wildenstein Gallery.<sup>2</sup> Twenty years later, Davies also supported its authenticity and ascribed it to Rogier's early period.<sup>3</sup> The National Museum of Western Art in Tokyo accepts the conclusion of these scholars.

There are, on the other hand, scholars who disagree with this attribution. Panofsky first questioned its authenticity in his *Early Netherlandish Paintings*; Schabacker and Bruyn have also raised objections.<sup>4</sup> While these authors do not mention the reasons behind their conclusion, the use of words like "weak and cramped"<sup>5</sup> to describe the work in Tokyo indicates that they consider it far inferior stylistically to other works by Rogier. Indeed, the modeling of the face, neck, and hands is undeniably weak, even excessive past cleaning is taken into consideration.<sup>6</sup>

The Musée du Carnavalet in Paris possesses a version (probably made in the nineteenth century) of the work in Tokyo.<sup>7</sup> This raises two possibilities: either the former is a copy after the latter or both are copies after the now-lost original.

According to De Jong, the beautiful coat of arms on the back of the panel belongs to the Van Zuylens: the initial 'S' stands for Steven van Zylen van Neyevelde, who was born in 1415 to Jacque van Zylen van Neyevelde and Elsabe de Neyenrode, while the initial 'E' may possibly refer to his wife, Elisabeth van Ooy.<sup>8</sup> If this identification is correct, the man depicted here would be Steven van Zylen. On the back of the work in Paris, only the upper left portion of this coat of arms is depicted; in addition, the style of the initials and the coloration are different.

Notes:(1) Koshi, op. cit. [in Japanese], p. 6. (2) Beenken, op. cit. (3) Davies, op. cit. (4) Panofsky, op. cit.; Schabacker, op. cit.; Bruyn, op. cit. (5) Schabacker, idem. (6) A Photograph in the RKD clearly shows this painting in a badly damaged state. Considerable restoration must have been carried out thereafter. (7) Musée du Carnavalet, Paris, inv. no. p. 617; oil on panel, 35.5×23cm; Previously in the collection Mashier. (8) Koshi, op. cit., p. 4. He cites the following literature on the Zuylens and their coat of arms: Cuypers, P. J. H., *Le château de Haar à Haarzuylens*, Utrecht, 1910, pp. 29-30; Dycke, F. van, *Recueil herardique....de familles nobles et patriciennes de la ville et du francnat de Bruges*, Bruges, 1851, pp. 533-534.

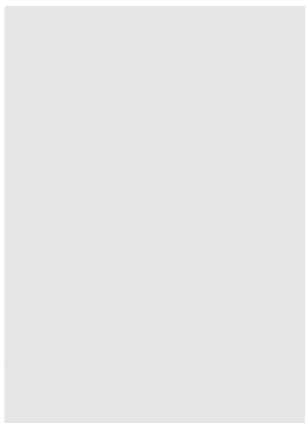
#### Anonym, Flemish 15th century.

43.

##### *Mater Dolorosa*

Oil on panel, 49.5×35.3cm

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1975-1



**Provenance:** Otto Wertheimer, Paris

**文献 Bib.:** 山田智三郎, 「昭和50年度の新収作品について」, 『西美年報』10 (1976), pp. 4, 8-9; 『西美総目録』, 1979, no. 45.; 『西美名作選』, 1989, no. 5.

From the latter half of the fifteenth century, the Virgin Mary in tears, or the *Mater Dolorosa*, was often painted as a companion piece to *Christ Crowned with Thorns* by Dieric Bouts and his circle. Gradually, however, it became an independent motif. It is not known if this particular work was originally paired with a *Christ Crowned with Thorns*.

At first, the Museum of Western Art in Tokyo cited no specific artist as the painter of this work, describing the Madonna's face as being more softly and tenderly modeled than in works by Rogier or Bouts. In their view, a younger painter who once studied in one of these artists' ateliers may have been responsible for the work, which was painted around the end of the fifteenth century.<sup>1</sup> In the Museum Catalogue of 1979, however, the work is attributed to Colyn de Coter.<sup>2</sup> Périer-Dieteren does not mention this work in his monograph on Colyn de Coter.<sup>3</sup>

Notes:(1) Yamade, op. cit. [in Japanese], p. 4. (2) Cat. 1979, op. cit., no. 45. (3) Périer-Dieteren, C., *Colyn de Coter*, Brussels, 1985, Fig. 285. The Museum Catalogue of 1989 rejects their previous attribution to De Coter.

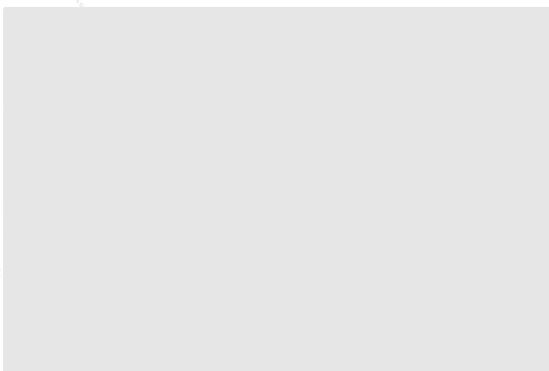
#### Anonym, Flemish at the end of 16th century

44.

*Landscape with the Judgement of Paris*

Oil on panel, 127×185cm

The National Museum of Western Art, Tokyo, inv. no. P. 1977-6



**Provenance:** Auc. Spik, Berlin, Nov. 22/23 1951; H.-G. Schl, Düsseldorf.

**Exhibition:** *Das Flämische Landschaftsbild des 16. und 17. Jahrhunderts*, Berlin, 1927, no. 34; *European Landscape Painting*, National Museum of Western Art, Tokyo/Yamanashi Prefectural Museum of Art, Kofu, 1978/79, no. 6

**文献 Bib.:** 越宏一, 「昭和52年度の新収作品 (絵画) について」, 『西美年報』12 (1978), pp. 4-6, 20-21; 『西美総目録』, 1979, no. 43.

Sluiter, E. J., *De 'Heydensche Fabulen' in de Noordnederlandse Schilder kunst. Circa 1590-1670*, The Hague, 1987, p. 359 as Gillis van Coninxloo.

Plietzsch, a pioneer in the study of the Frankenthal School, has described both this work and the *Landscape with the Judgement of Midas* (Dresden, 1588) as early works of Gillis van Coninxloo.<sup>1</sup> This attribution needs to be reconsidered, however, for the work in Tokyo is extremely weak in its handling of details and the composition is far inferior to that of the work in Dresden. Though the same composition cannot be found among Coninxloo's extant prints, the monotonous depiction of the branches and leaves in this painting give the impression that it was based on a print.<sup>2</sup>

Notes:(1) Koshi, op. cit. [in Japanese], p. 4. (2) The prints are important documents that let us trace the paintings by Coninxloo during his Frankenthal period that are now lost. For his prints, see Plietzsch, E., *Die Frankenthaler Künstlerkolonie und Gillis van Coninxloo*, Leipzig, 1910, pp. 60-64; Franz, H. G., *Niederländische Landschaftsmalerei im Zeitalter des Mannerismus*, Graz, 1969, vol. 2, figs. 413-422.

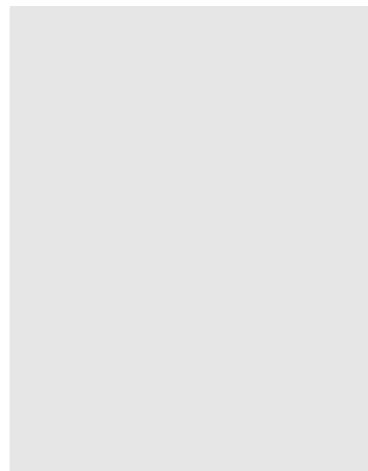
#### Anonym, Flemish 17th century

45.

*St. Sebastian*

Oil on canvas, size unknown

Priv. coll., Tokyo



**Provenance:** Kojiro Matsukata; priv. coll., Tokyo

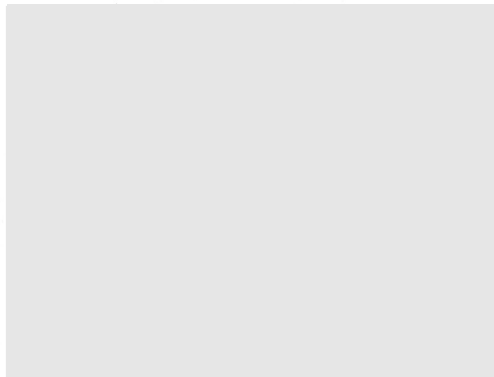
The work is painted in the manner of Van Dyck. The hands bound behind the back, the serpentine body, the low viewpoint, and the small evening landscape in the background are also seen in a work by Rubens with the same subject (Museum Dahlem, Berlin, inv. no. 798H).

Anonym, Flemish 17th or 18th century

46.

*Landscape*

Oil on canvas, 61.7×80.3cm  
Kyoto Municipal Museum, Kyoto.



Provenance: M. Masuda; donated to present owner in 1942.

Exhibition: *Taiseikoga Tokubetu Chinretsū*, Kyoto, 1942, no. 12.

文献 Bib.: 『京都市立美術館蔵品目録』, 1983, p. 274, no. 221, 図版入り。

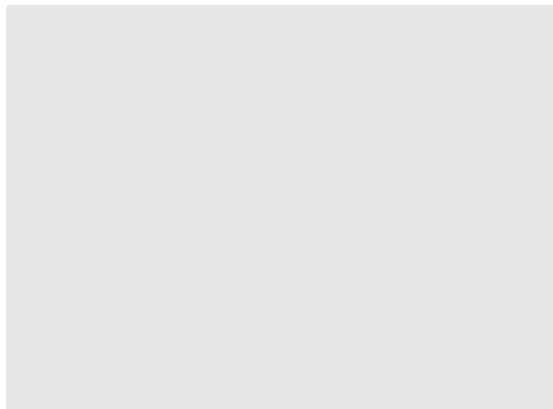
The style and the composition remind us of the circle of painters around Jan Bruegel who were active from the end of the sixteenth to the beginning of the seventeenth century. The painting is in extremely poor condition.

Anonym, Dutch 17th century

47.

*Landscape*

Oil on panel, 20.6×27cm  
Tokyo National Museum, inv. no. 698



Provenance: McLellan coll., Glasgow; Art Gallery and Museum, Glasgow since 1854, inv. no. 31; acquired by present owner in 1879.

文献 Bib.: 小林頼子, 「東京国立博物館所蔵の西洋絵画」, 『東京純心女子短期大学紀要』第2号, 1988, p. 66.

An old document held by the Art Gallery and Museum in Glasgow, the former owner, mentions "P. D. Heer" as the artist.<sup>1</sup> Stylistically, the work reminiscent of one of the imitators of Van Goyen.

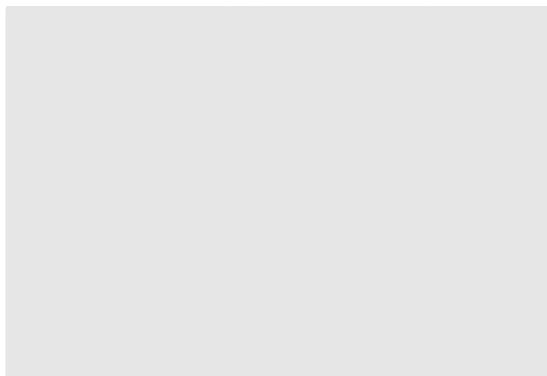
Notes:(1) Letter to author from Anne Donald, curator of the Art Gallery and Museum in Glasgow (Dec. 12, 1985).

Anonym, Dutch, 17th century.

48.

*Landscape*

Oil on panel, 17.6×25.5cm  
Tokyo National Museum, inv. no. 705



Provenance: Euing coll., Glasgow; Art Gallery and Museum, Glasgow since 1856 or 1874, inv. no. 320; acquired by present owner in 1879.

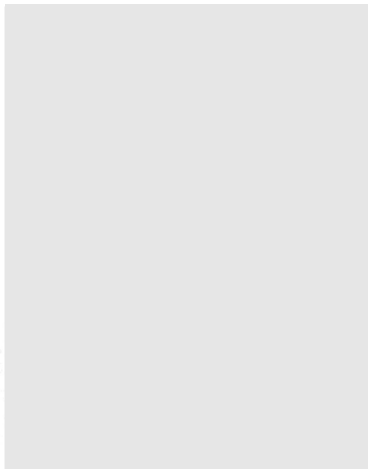
文献 Bib.: 小林頼子, 「東京国立博物館所蔵の西洋絵画」, 『東京純心女子短期大学紀要』第2号, 1988, p. 70.

Anonym, Dutch 17th century

49.

*The Singing Lesson*

Oil on panel, 45.8×36cm  
Tokyo National Museum, inv. no. 696



**Provenance:** McLellan coll., Glasgow; Art Gallery and Museum, Glasgow since 1854; acquired by present owner in 1879.  
**文献 Bib.:** 小林頼子, 『東京国立博物館所蔵の西洋絵画』, 『東京純心女子短期大学紀要』第2号, 1988, p. 66.

An old document held by the Art Gallery and Museum in Glasgow, the former owner, cites “Hoogstraten” as the artist.<sup>1</sup> This must refer to Samuel van Hoogstraeten (Dordrecht 1627-idem 1678), though the quality of the work is clearly far inferior to that of authentic works by the artist.

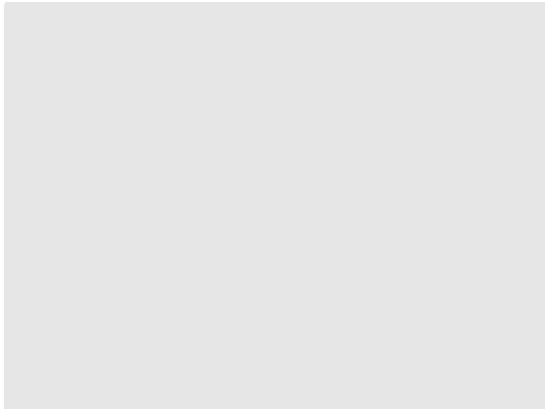
Notes:(1) Letter to author from Anne Donald, curator of the Art Gallery and Museum in Glasgow (Dec. 12, 1985).

#### Anonym, Dutch 17th century

50.

##### *Horse*

Oil on Panel, 19.2×25.6cm  
Tokyo University of Fine Arts and Music



**Provenance:** Kinkichiro Honda; purchased by present owner in 1900.  
**文献 Bib.:** 『東京芸術大学資料館蔵品目録 絵画 III』, 1984

The catalogue of the collection of Tokyo University of Fine Arts and Music mentions “Wouwernam” as the artist.<sup>1</sup> This must be one of the Wouwerman brothers (Philips, 1619-1668; Pieter, 1623-1682; Jan, 1629-1666), who all specialized in painting horses. The poor condition of the painting, though, does not enable us to distinguish the hand of the artist.

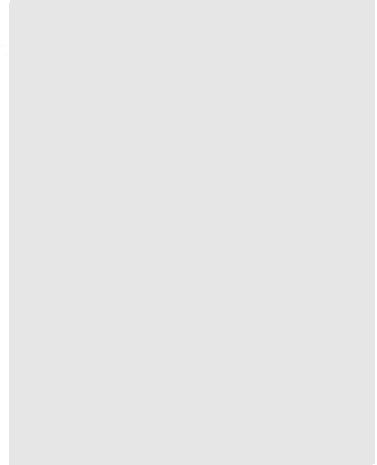
Notes:(1) Cat., op. cit. [in Japanese]

#### Anonym, Dutch 18th century

51.

##### *Still-Life. Flowers*

Oil on canvas, 112.5×83.5cm  
Gakushuin University, Tokyo



**Provenance:** S. Okada; donated to present owner.

The painting is currently exhibited as a work by Jan van Huysum, who was born in 1682 in Amsterdam. Its quality, however, in no way equals that of the genuine works by this painter, who was one of the most important Dutch flower painters active from the beginning of the eighteenth century.

## Addenda

The paintings that I have come across after the publication of part I of this paper are listed below. Because I have not yet been able to devote sufficient time to their study, I have chosen to make just a few comments at this time. In some cases, no information on provenance was available. For the notations immediately after the number of the work, see p.36 of the previous issue of this magazine.

**Both, Jan** (?Utrecht c.1615-idem 1652)

A-1.

##### *Travelers Resting on the Shore in the Forest*

Oil on canvas, 60.5×80.5cm  
Priv. coll.



**Provenance:** Sir Harvey Bruce; Christie's, June 29, 1849; J.E. Fordham 1849-78; Lord Ashburton, Bath House, Piccadilly, 1890  
**Exhibition:** The British Institution, 1866, no.83; *The Works of the Old Masters*, The Royal Academy, 1890, no.112  
**Bib.:** Hofstede de Groot 1908-1927, vol.IX, p.467, no.154

This work is not mentioned in J.D.Burke, *Jan Both: Paintings, Drawings and Prints*, New York/London, 1976. The two men, one on a horse and the other adjusting a stirrup for him, are similar to the figures in a painting by Both in the *Musées Royaux des Beaux-Arts de Belgique*, Brussels (inv.no.1176). A. Balnkert has kindly suggested to me a dating of around the end of the 1640s.

**Brueghel the Elder, Jan** (Brussels 1568-Antwerp 1625)

A-2.

*Landscape with Farmers Going to a Market*  
 Oil on copper, 18×26cm  
 Signed and dated 1595  
 Tokyo Fuji Art Museum

There are several versions of this work with almost the same composition and motifs.<sup>1</sup> Among them, the Tokyo painting has the earliest date. Because I have not yet seen it, I wish to refrain from stating whether it is an authentic work or a copy like the ones in Vienna and Munich judged as such by Ertz.<sup>2</sup>

Notes: (1)The following versions have been hitherto mentioned: ① Reg. Fürsten von Liechtenstein coll., Vaduz, copper, 16×22cm, signed and dated 1604. Ertz, K., *Jan Brueghel der Ältere (1568-1625). Die Gemälde mit kritischem Katalog*, Köln, 1979, cat.no.105 ②Formerly (1956) Kaplan Gallery, London, signed and dated 1604, copper, 18×26cm. Ertz, idem, cat.no.78 ③Kunsthistorisches Museum, Vienna, inv.no.6328, copper, 18.5×25.5cm ④Alte Pinakothek, Munich, inv.no.2877, copper, 24.7×33.1cm ⑤Auc., Sotheby's, 1966, London, signed and dated 1606, copper, 27.9×41.9cm. Ertz, op.cit., cat.no.136 ⑥Niedersächsisches Museum, Hannover, signed and dated 1600, copper, 22×29.5cm ⑦Coll. Henle, Duisburg ⑧Auc., Sotheby's, June 22, 1960, London, no.22 ⑨Nationalmuseum, Stockholm. Because of the lack of information of provenance, it is not certain if A-2 is identical with ⑦, ⑧, or ⑨. (2) Ertz, op.cit., pp.143, 575

**Brueghel the Younger, Pieter** (Brussels c.1564-Antwerp 1637/38)

A-3.

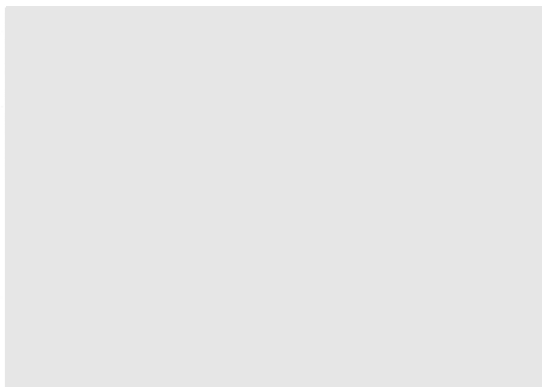
*Hunters in the Snow*  
 Oil on panel, 25.5×32.5cm  
 Tokyo Fuji Art Museum

This is clearly a copy, though with some differences in detail, after the famous large work in Vienna by the painter's celebrated father.<sup>1</sup>

Note: (1) Marlier, G., *Pierre Brueghel Le Jeune. Edition posthume mise au point et annotée par Jacqueline Folie*, Brussels, 1969, pp.182-83 mentions three paintings which depict a wedding feast in the open air, just like the Fuji piece: ①115×172cm, signed and dated 1626, priv.coll., Kraainem ②67.5×104cm, Gallery Brod, London, which derives from the Sir Robert Bird collection and the Slatter collection, London (exh. in 1949, no.2), and was exhibited at the Musée d'art et histoire in Geneva in 1963 ③priv.coll., Belgium, panel, 74×103cm, sale Van den Broek, March 10, 1856, no.73. It is not certain whether the Fuji piece is identical with ②or③.

A-4.

*The Peasant Wedding Feast*  
 Oil on panel, 73×104cm  
 Signed and dated 1630  
 Tokyo Fuji Museum of Art



This is also a copy after the famous work in Vienna by Pieter the Elder, although the scene is set in the open air and some motifs have been changed.<sup>1</sup>

Note:(1)The Fuji piece is not mentioned in Marlier, G., *Pierre Brueghel Le Jenue. Edition posthume mise au point et annotée par Jacqueline Folie*, Brussels, 1969, but a related painting can be found at the back of the book (20.5 × 27.7cm, priv.coll., Brussels). This work, however, is by a different hand (Jacob Savery) and has a different composition.

Droochsloot, Joost Cornelisz (?Utrecht 1586-idem 1666)

A-5.

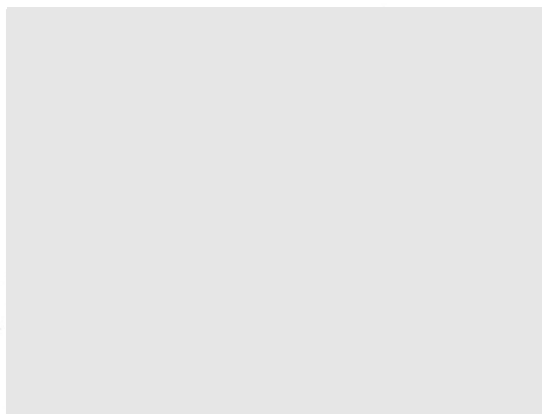
*Landscape*

Oil on panel, 44 × 60cm

Signed in monogram and dated at the bottom right-hand corner: JSDS

(J&S and D&A are each in monogram) 1636

Tokyo Fuji Art Museum



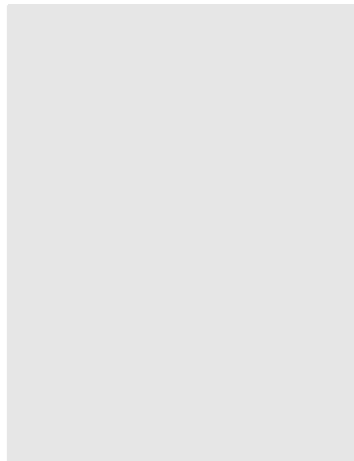
Dyck, Anthony van (Antwerp 1599-London 1641)

A-6.

*Portrait of Ann Carr, Countess of Bedford*

Oil on canvas, 103 × 79.5cm

Tokyo Fuji Art Museum



**Provenance:** The Dukes of Bedford (1827); Earl of Spencer, Althorp; Sir Joseph Duveen Bart, New York; Norton Simon coll., California; Sotheby's, London, 1973

**Exhibition:** *Flemish and Belgian Art*, Royal Academy, London, 1927, cat.no.162

**Bib.:** Young, J., *Catalogue of Pictures*, British Institution, London, 1815, p.18, no.86; Anon., *Catalogue of the Spencer Collection*, Althorp, 1831, no.356; Smith, J., *A Catalogue Raisonné of the Works of the Most Eminent Dutch, Flemish and French Painters*, Vol.III, no.503; Waagen, G.F., *Treasures of Art in Great Britain*, 1854, vol.III, p.458; Head, P. R., *Van Dyck*, London, 1879, p.71; Cust, L., *Anthony van Dyck. A Historical Study of his Life and Work*, London, 1900, p.270, no.27; Glück, G., *Van Dyck*, Stuttgart, 1931, pp.467, 572; Larsen, E., *The Paintings of Anthony van Dyck*, Freren, 1988, vol.I, p.387, ill.438, vol. II, pp.304-05, no.767

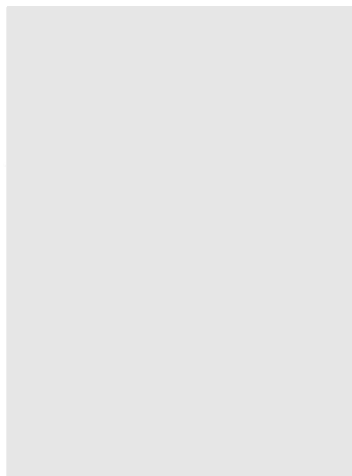
Larsen dates this painting to the painter's last years. The lady depicted (1615-1684) is the daughter of Robert Carr, Earl of Somerset, and the wife of William Russel, the fifth Earl, later first Duke of Bedford.

A-7.

*The Penitent Magdalena in the Desert*

Oil on canvas, 97.5 × 72cm

Priv. coll.



**Provenance:** Sir Joseph Robinson, Bt.; Auc., Sotheby's, London, July 6, 1923, no.98; The Late Princess Labia; Agnew's, 1968  
**Exhibition:** National Gallery, Cape Town, 1959, no.19; *Van Dyck*, Agnew's, London, 1968, no.9

**文献 Bib.:** 『芸術新潮』 1969年11月号, p.17

'Current and Forthcoming Exhibitions', *Burlington Magazine* (1968), p. 711; Larsen, E., *The Paintings of Anthony van Dyck*, Freren, 1988, vol. II, no.231 with ill.

Larsen dates this painting to c.1618, comparing its composition with that of a work with the same subject by Titian in the Hermitage, Leningrad and its execution with the style of Rubens.<sup>1</sup>

Note: (1)Larsen, op.cit. The review of the exhibition in London published in the *Burlington Magazine* (1968) questions the attribution of this work to Van Dyck.

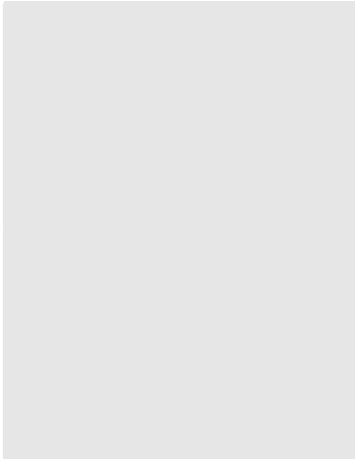
#### A-8.

Workshop of (?)

*Rinaldo and Armida*

Oil on canvas, 154.2×119.2cm

Priv. coll.



**Provenance:** Priv. coll., Germany, before 1925; Purchased from this coll. in 1925 by the father of the present owner.

The story depicted here is based on Stanza 17-23 of Canto 16 of Tasso's *Gersalemme Liberata*, 1574.

Two other versions of this painting have been cited: one in the Louvre, generally accepted as the original and the other known to be in New York in 1954.<sup>1</sup> It is known that the inventory of the Stadtholder Frederick Hendrick compiled in 1632 lists a painting called *Mars and Venus* by Van Dyck. The description of the entry, corresponding to the design of the pieces in Paris, New York and Tokyo, proves its two title to be *Rinaldo and Armida*.<sup>2</sup> There exist two other old documents relevant to the composition: first, no.95—*Rinaldo and Armida*—in the testament of Amalia van Solms written in 1675, which was inherited by one of her daughters, Henrietta Catharine van Anhalt-Dessau, and later passed to Henrietta Amalia who died in 1726<sup>3</sup>; and second, entry (6) in the Het Loo sale, Amsterdam, July 26, 1713.<sup>4</sup> The former might be related to the work mentioned by Hofstede de Groot to be in the castle of Dessau,<sup>5</sup> and may be identical to the piece in New York in 1954, which came from Germany.<sup>6</sup> Because the Louvre piece was brought by Napoleon in 1795 from the Hague,<sup>7</sup> it must be identical to the

one listed in the inventory of Frederick Hendrick. The Tokyo piece, although there is no evidence to support this, might be traced back to the Het Loo sale in 1713.<sup>8</sup>

The present condition of the Tokyo piece is too poor for judgement: the previous coarse restoration and darkening of the three old layers of varnish make many details, as well as the original execution and colors, almost invisible. Attribution, therefore, may be possible only after proper cleaning and restoration.

Incidentally, the Louvre piece is dated to c.1630-31 by Larsen.<sup>9</sup>

Notes: (1)Inv.no.1235, oil on canvas, 133×109cm, Glück, op.cit., p. 363, Larsen, op.cit., no.742; oil on canvas, 150×118.8cm, whereabouts unknown. The New York piece is almost the same in size as the Tokyo piece. (2)Drossaers, S.W.A. with notes by C.Hofstede de Groot and C.H. de Jonge, 'Inventaris van de meublen van het Stadhouderlijk kwartier met het Speelhuis en van het Huis in het Noordeinde', *Oud-Holland* (1930), p.204: 'Een stuck schilderje, daerinne Mars leyt en rust met zijn hoofd in de schoot van Venus, daerbij sit een Cupid met roode fluweele myul aen de voet ende een coussebant aen zijn been, dienende om voor een schoorsteen te stellen, door [Anthony] Van Dijk gedaen'. (3)idem (4)Hoet, G., *Catalogue of Naamlyst van Schilderyen*, The Hague 1752, I, p.150. As Van Gelder pointed out, the Het Loo piece could not be the Amalia van Solms piece because its inheritor, Henriette Amalia, died in 1726. (5)Hofstede de Groot, op. cit. Van Gelder (*Musées Royaux des Beaux-Arts. Bulletin*, vol.8, 1959, pp.61-62) supposes the piece listed in the testament of Amalia van Solms to be a replica of *Rinaldo and Armida* in Baltimore (Larsen, op. cit., vol.II, no.740), whose composition is different from the Tokyo piece. (6)Larsen, op.cit., vol.II, p.295 (7)*Catalogue sommaire illustré des peintures du Musée du Louvre. I Ecoles Flamande et Hollandaise*, Paris, 1979, p.193 (8)Eckardt, G., *Die Gemälde in der Bildergalerie von Sanssouci*, Potsdam-Sanssouci, 1980, p.33 mentions 'eine nicht näher beschriebene Rinaldo-Armida-Darstellung' which was found in the palace of prince Heinrich in Berlin in 1779 and auctioned in 1803. This painting may possibly be identical with the Tokyo piece, which was in a priv.coll. in Berlin until around 1925. Incidentally, Valentiner identified the Het Loo piece with a painting in the County Museum in Los Angels (see cat. Los Angels, 1954, no.19), while Glück, op.cit. identified it with *Rinaldo and Armida* in the Louvre in Paris. (9)Larsen, op.cit., vol.II, p.294.

Gelder, Aert de (Dordrecht 1645-idem 1727)

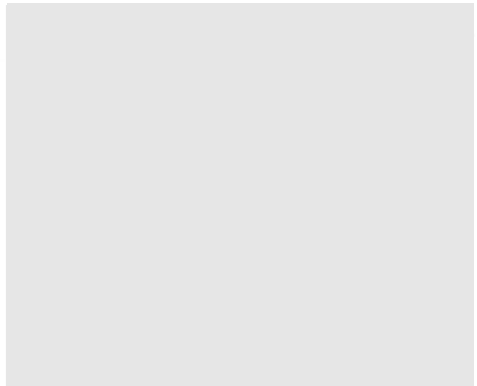
#### A-9.

*Nathan Admonishes King David*

Oil on canvas, 99×125.5cm

Signed and dated 1683

Tokyo Fuji Art Museum



**Provenance:** Sale Thomas Schwenke, Oct. 6, 1767, no.27; Sale Christie's, London, April 4, 1937, no.29; Auc., Sotheby's, London, March 23, 1949, no.97

**Exhibition:** 『オランダ絵画の黄金時代+バルビゾン派』, 東京(Masterpieces of the Dutch Golden Age+Barbizon, Tokyo), 1989, no.3

**Bib.:** Sumowski, W., *Bemerkungen zu Otto Benesch's Corpus*, Bad Pyrmont, 1961, p.17 under no.915; Fossen, D. van, *Aert de Gelder*, Cambridge, Mass., 1969, p.142, p.243, no.32, fig.33, as *Ahasver and Haman*; Moltke, J.W. von, *Aert de Gelder*, cat.no.22 with ill.; Sumowski, W., *Gemälde der Rembrandt-Schüler*, 1983, vol.II, p.1163, cat.no.736 with ill.; in *Tableau* (Dec. 1983), cover ill. in color

The story depicted is from II Samuel 12:7-14. The composition, as pointed out by Sumowski,<sup>1</sup> can be compared with Rembrandt's drawing of around 1652-53 with the same theme.<sup>2</sup>

Notes:(1) Sumowski, 1983, op.cit., p.1163 (2) Benesch, O., *The Drawings of Rembrandt*, London, 1973, vol.V, no.918, Fig.1195

Goyen, Jan van (Leyden 1596-The Hague 1656)

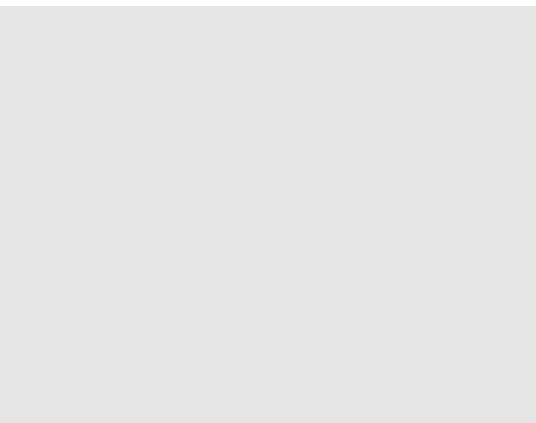
A-10.

*River Landscape with Fisherman*

Oil on canvas, 100.6×134.9cm

Signed and dated on the boat in the bottom right-hand corner: *VGoyen 1644(or 1641)*

Tokyo Fuji Art Museum



**Provenance:** Sale Christie's, London, April 17, 1935, no.3

**Bib.:** Beck, H.-V., *Jan van Goyen*, Amsterdam, 1973, vol.II, no.859 with ill.

A-11.

Style in

*River Landscape*

Oil on panel, 33.3×47.9cm

Signed and dated on the boat in the bottom left-hand corner: *VC 1651*

Yokohama Museum of Art

**Provenance:** K.Matsukata; the 15 Bank, 1927-28; priv. coll.; T. Sakata coll.; bequeathed by him to the present owner

**Exhibition:** 『松方氏蒐集歐洲美術展覧会』(第1回売り立て展), 上野公園東京府美術館, 昭和3年(*The First Exhibition of the Matsukata Collection*, Tokyo, 1928), no.177 or no.178: 『神戸市制100周年記念特別展・松方コレクション展』, 神戸市立博物館, 1989, no.154

**文献Bib.:** 『横浜美術館コレクション展示作品目録』, 横浜, 1990, p.14

While allowing that many details, including some original outlining, are now lost, the painting is nevertheless too weak to be an authentic work by Van Goyen. It must have been painted in the style of Van Goyen by a painter who was well acquainted with his style.

Hals, Frans (Antwerp c.1581/85-Haarlem 1666)

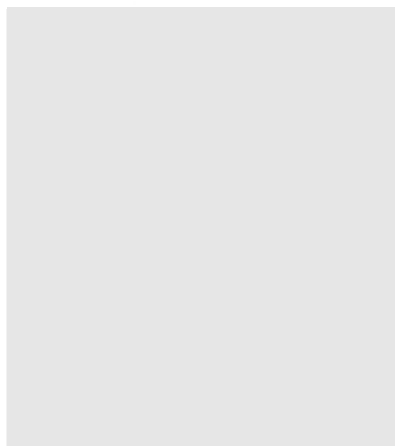
A-12.

*Portrait of a Man*

Oil on canvas, 102.9×88.9cm

Inscribed to the right of the sitter's face: *AETAT SUAE 73 / AN<sup>o</sup> 1633*

Tokyo Fuji Art Museum



**Provenance:** William Danby of Swinton Pard (died 1833); inherited by his widow Anne Holwell, who, marrying Admiral Octavius Vernon Harcourt, became Mrs. Danby Harcourt; on her death, by descent to George Affleck; bought in 1882-83 with the house, by Samuel Cunliffe-Lister, who became first Lord Masham in 1891;

Viscountess Swinton, London; art dealer Eugene V. Thaw, New York, 1984

**Exhibition:** London 1952-53, no.62; *Dutch Painting of the Seventeenth Century*, Ferens Art Gallery, Kingston upon Hull, 1961, cat.no.38

**Bib.:** Possibly Hofstede de Groot 1908-27, vol. III, no.349c; Collins Baker, C.H., 'Two Unpublished Portraits by Frans Hals', *Burlington Magazine*, vol. XLVI (1925), p.42ff, dating to c.1626; Valentiner, W. R., 'Rediscovered Paintings by Frans Hals', *Art in America*, vol. XVI (1928), p.248; idem, 'New Additions to the Work of Frans Hals', *Art in America*, vol. XXIII (1935), p.101, no.6; Slive, S., *Frans Hals*, London, 1974, no.40.; Grimm, C., *Frans Hals. Das Gesamtwerk*, Stuttgart, 1989, p.284

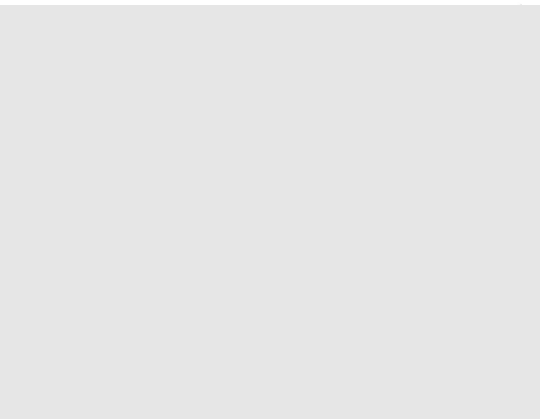
Slive mistakenly cites the size of the painting as 81×66cm.<sup>1</sup> The old inscription mentioned in the previous literature, *AET AT SVA.../ Anno 55*, was removed by the restoration done around 1984, and the present one became visible. At the same time, the background tonality characteristic of Hals's work and the sitter's flying locks of hair were also restored.<sup>2</sup> It is not certain whether Grimm's rejection of the attribution of the painting was based on its condition before or after the restoration.<sup>3</sup> The inscription, *Gerustheyd des gemoets*, is visible on the book on which the sitter places his left hand.

**Notes:** (1)Letter to author from prof. S.Slive (January 7, 1991). (2) idem (3)Grimm, op.cit., cites the painting as 'Umkreis'.

**Rubens, Peter Paul** (Siegen 1577-Antwerp 1640)

**A-13.**

Copy after  
*The Marriage of Constantin*  
Oil on panel, 49×65cm  
Tokyo Fuji Art Museum



**Provenance:** Coll. Flament, Grammont; coll. Weissenbruch, Brussels; coll. Dulière, Brussels

**Exhibition:** *A Loan Exhibition of Works by Peter-Paul Rubens* (cat. by Burchard, L.), Wildenstein Gallery, London, 1950, no.19; *Le Siècle de Rubens*, Musées Royaux des Beaux-Arts de Belgique, Brussels, 1965, no.223; 『黄金の17世紀フランドル絵画』, 東京富士美術館(*The 17th Century. The Golden Age of Flemish Painting*, Tokyo Fuji Art Museum), 1988, no.56

**Bib.:** Flament, G., in *Pictura* (1945), pp.137-139; Puyvelde, L. van, *The Sketches of Rubens*, London, 1947, no.29; idem, in *Gazette des Beaux-Arts*, vol. LXII (1961), p.145; Held, J., *The Oil Sketches of Peter Paul Rubens. A Critical Catalogue*, New Jersey, 1980, under no.39

The painting is considered by Held to be a copy after a work with the same composition, formerly in the collection of Leatham.<sup>1</sup> Puyvelde accepts the attribution of the Leatham, but regards the Tokyo piece to also be authentic. He infers that the Tokyo piece was painted earlier than the Leatham one.<sup>2</sup> The two paintings differ in some details. In any case, the original design was made in following with the request of Louis XIII and presented to him in 1622 for the model of the tapestry now in the Philadelphia Museum of Art.

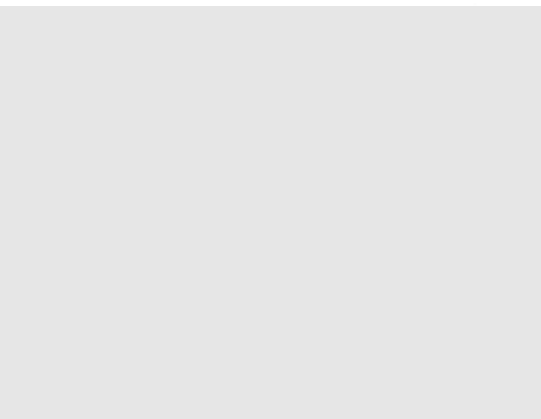
The scene depicts Constantin and Fausta being married on the right side, followed by two young women and two boys with torches, and the marriage of Constantin's sister Constance to Licinius on the left side. In the niche in the middle are two statues of Jupiter and Juno. Rubens combines these two marriages, which took place respectively in 307 and 313, in one scene to suggest Louis XIII's marriage to Anne of Austria and that of his sister Isabella to Philip IV.<sup>3</sup>

**Notes:** (1)Held, op. cit., pp.70-72, no.39, dated to 1622 (2)Exh. cat., op. cit. (1965), pp.213-14 (3)For further information, see Held, op. cit., p.71

**Ruysdael, Salomon van** (Naarden 1600/03-Haarlem 1670)

**A-14.**

*The Halt before the Inn*  
Oil on canvas, 86.5×118.5cm  
Signed and dated 1645  
Tokyo Fuji Museum of Art



**Provenance:** M.L.van Hoeken, Wassenaar; Sale M.L.van Hoeken, Amsterdam, June 24, 1959, no.199; P.de Boer, Amsterdam, cat.no.30  
**Bib.:** Stechow, W., *Salomon van Ruysdael*, Berlin, 1975, p.91, no.153A

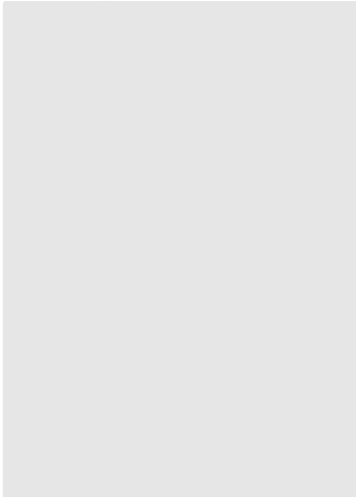
The composition is very similar to the work of 1643 in the Norton Simon Museum of Art, Pasadena.<sup>1</sup>

**Note:** (1)Stechow, op. cit., p.90, no.147, ill.21.

**Vos, Cornelis de** (Hulst, Zeeland 1584/85-Antwerp 1651)

**A-15.**

*Portrait of a Girl*  
Oil on panel, 100.5×70.5cm  
Priv. coll.



**Provenance:** Coll. Paul Cassirer, Berlin, 1921; Anon. art dealer, Amsterdam, ca.1925; K.Matsukata, Kobe (Japan); The 15 Bank before 1944

**Bib.:** Stighelen, K. van der, *De portretten van Cornelis de Vos (1584/5-1651): een kritische catalogus*, Brussels, 1990, no.29.

Stighelen dates this painting to ca.1624/25, based on stylistic similarities with Vos's paintings depicting children, which are all dated to before 1625.<sup>1</sup> The panel consists of three oblong panels seamed together. Although traces of restoration are rather marked along the seams, the rest of the work is in very good condition.

Note: (1)Stighelen, op. cit., cat.nos.19, 26-28.

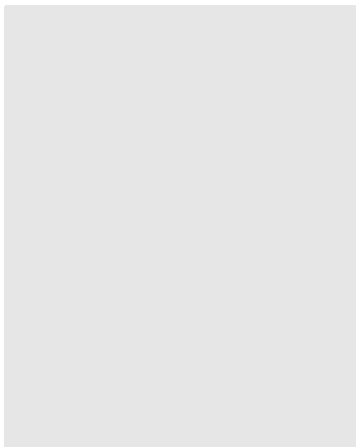
#### Anonym, Dutch 17th century

A-16.

##### *Portrait of a Man*

Oil on canvas, 94.5×73.5cm

Nippon Life Insurance Company • Nissei Theater, Tokyo



**Provenance:** K.Matsukata; The 15 Bank 1927-28; priv. coll.

**Exhibition:** 『松方氏蒐集歐洲絵画展覧会』(第6回売り立て展), 大阪阪急百貨店, 昭和9年(*The Fifth Exhibition of the Matsukata Collection*, Osaka), 1934, no.35; 『旧松方コレクション名作美術展』, 白木屋(*Ex-Matsukata Collection*, Tokyo), 1957, no.62; 『神戸市制100周年記念特別展・松方コレクション展』, 神戸市立博物館, 1989, no.155

The painting has until now been attributed to Jan de Braij (c. 1627-1697) based on a nameplate found attached to the frame at the time of its purchase by K.Matsukata around 1920 in Europe. The execution is, however, too weak for it to be an authentic work by De Braij, who was among the most talented portrait painters of his time.

\* After the publication of part I of this paper, I received many helpful suggestions from various specialists. To all of them I would like to extend my heartfelt gratitude. The comments offered by Prof.S.Slive, Harvard University, Mass. should particularly be mentioned here because they suggest some changes in attribution. No.16 is not by Hobbema, but by Jan van Kessel. A painting with the reverse image of no.17 is now in Prof.Slive's collection. Because there exists a print that is the reverse of the Slive piece, no.17 must be a copy after this print. The original is derived from a landscape which Rosenberg (no.269) wrongly catalogued in 1928 as a Jacob van Ruisdael. When the painting was sold at Sotheby's (N.Y.) on April 17, 1986 (no.83), it was ascribed to Salomon Rombouts, an attribution Slive considers to be correct.

# 美術館案内

## ブリヂストン美術館

**所在地** 東京都中央区京橋1-10-1(〒104)  
TEL.(03)3563-0241

**開館時間** 4月～10月 午前10時～午後6時  
11月～3月 午前10時～午後5時30分

**休館** 毎月曜日 年末年始(12月28日～1月4日)

**入場料** 個人：  
一般¥500 大・高生¥400 中・小生¥200  
団体(15名以上)：  
一般¥400 大・高生¥300 中・小生¥150  
なお、特別展の場合は変更することがある。

## 石橋美術館

**所在地** 福岡県久留米市野中町1015  
石橋文化センター内(〒830)  
TEL.(0942)39-1131

**開館時間** 午前10時～午後5時

**休館** 毎月曜日 年末年始(12月28日～1月4日)

**入場料** 個人：  
一般¥300 大・高生¥200 中・小生¥150  
団体(20名以上)：  
一般¥250 大・高生¥150 中・小生¥80  
なお、特別展の場合は変更することがあります。

# Guide to the Museums

## Bridgestone Museum of Art

**Address** 10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku,  
Tokyo 104, Japan  
Phone : (03)3563-0241

**Museum Hours** Open daily except Monday  
10:00a.m.-6:00p.m.(from April  
through October)  
10:00a.m.-5:30p.m.(from November  
through March)  
Closed from December 28 to  
January 4

**Admission** Adults ¥500  
Students ¥400  
Children under 15 ¥200

## Ishibashi Museum of Art

**Address** 1015, Nonaka-machi, Kurume,  
Fukuoka-ken 830, Japan  
Phone : (0942)39-1131

**Museum Hours** Open daily from 10.00a.m.  
to 5.00p.m. except Monday  
Closed from December 28 to  
January 4

**Admission** Adults ¥300  
Students ¥200  
Children under 15 ¥150



石橋財団職員

常務理事		楠 晋次
事務局	局 長	朝比奈仙二
		渡辺 瞳
		押本 仁子
		石黒 経子
		土屋 益子

ブリヂストン美術館

館 長		嘉 門 安 雄
事 務 部	事 務 部 長	大 崎 新 一
		岡 本 愛 子
		中 村 邦 子
	主 任	柴 田 孝 三
		田中朝次郎
		南山伊兵衛
		石 井 艷
		渡 辺 清 美
		青 柳 真 子
		加 藤 伸 子
学 芸 部	学 芸 部 長	阿 部 信 雄
		中 田 裕 子
		船 野 淳 子
		古城寺尚子
		塚田美香子
		田 中 千 秋
		貝 塚 健

石橋美術館

館 長		中 川 洋
事 務 部	事 務 部 長	平井麟之輔
		野 田 朋 子
		富 松 弘 美
		原 朋 子
学 芸 課	学 芸 課 長	田 内 正 宏
	主任学芸員	橋 富 博 喜
		杉 本 秀 子
		後 藤 純 子
		植 野 建 造

1990年 3 月31日現在

石橋財団  
ブリヂストン美術館  
石橋美術館  
**館 報** 第38号(1989年度)  
1991年 3 月発行

編集・発行  
石橋財団ブリヂストン美術館  
制作  
美術出版デザインセンター





